

平成22年度（第54回）
岩手県教育研究発表会資料

特別支援教育

小・中学校特別支援学級（知的障がい）における 領域・教科を合わせた指導の充実に関する研究

—県内特別支援学級の現状を踏まえた

「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の作成を通して—

平成23年2月18日
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校 北上市立上野中学校
菅原 敦彦

＜目 次＞

I	研究の目的	1
II	研究の方向性	1
III	研究の内容と方法	1
1	研究の内容と方法	1
2	研究の対象	1
IV	研究結果の分析と考察	2
1	小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関する基本構想	2
(1)	小・中学校特別支援学級における特別支援教育の変遷	2
(2)	小・中学校特別支援学級における教育課程	3
(3)	小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導	3
(4)	小・中学校特別支援学級における課題	4
(5)	小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関する改善の視点	4
(6)	小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関する基本構想図	5
2	平成22年度特別支援学級教育課程届に見る岩手県内小・中学校特別支援学級の現状	5
(1)	現状把握の対象と方法	5
(2)	特別支援教育経験年数	6
(3)	特別支援学校教諭免許状等保有状況	6
(4)	担当者年齢分布	6
(5)	小・中学校特別支援学級の授業時数	7
(6)	教育課程編成届に見る特別の教育課程	9
(7)	県内の現状を踏まえた、領域・教科を合わせた指導の充実のための改善の視点	9
3	県内特別支援学級の現状を踏まえた「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の作成と指導実践	10
(1)	「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の構成	10
(2)	「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を使用した指導実践	16
4	県内特別支援学級の現状を踏まえた教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する指導実践の分析と考察	19
(1)	「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の修正・改善	19
(2)	「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の修正・改善後の使用の流れ	19
5	小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関するまとめ	31
(1)	成果	31
(2)	課題	31
V	研究のまとめと今後の課題	31
1	研究のまとめ	31
2	今後の課題	32

＜おわりに＞

【引用文献】

【参考文献】

I 研究の目的

小・中学校特別支援学級（知的障がい※以下略）は、児童生徒の実態や教育的ニーズを踏まえた上で、「特別の教育課程を編成すること」が法令上認められており、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考にしている。児童生徒は、その一つである領域・教科を合わせた指導により生活に結び付いた実際の・具体的な活動に目的意識をもって取り組み、主体性や達成感、自己肯定感等を高め、生活の充実・発展という一連の活動の中で知識・技能を習得し、社会参加や自立をしていく。

しかし、「岩手県特別支援学級等設置学校長 特別支援学校長及び担任者名簿」（2009、岩手県特別支援教育研究会）を基にした算出によると、小・中学校特別支援学級担当教員の4割強は、特別支援学級の経験が3年未満であり、領域・教科を合わせた指導の意義や特徴等を十分に理解しないまま実践している現状が見られる。また、同じ学級内においても、特別支援学級で過ごす時間が児童生徒によって異なっていることや、中学校においては、特別支援学級担任が特別支援学級以外の学級の教科を受け持っていることなどにより、領域・教科を合わせた指導を取り入れたりするなど適切な教育課程でなかったり、取り入れていたとしても、十分な指導・支援につながっていなかったりする現状がある。これらのことにより、特別支援学級に在籍する児童生徒は、生活に結び付いた実際の・具体的な活動に取り組むことが少なくなりがちであり、通常の学級より程度を下げた学習内容を、受け身的に学んでいるといった状況が多く見られる。

このような状況を改善するためには、県内の特別支援学級に在籍する児童生徒や担当教員の現状を踏まえた、児童生徒の社会参加や自立につながる教育課程や、領域・教科を合わせた指導の意義・特徴を踏まえた単元例・指導計画作成上の留意点等を、小・中学校教員に示していくことが必要である。

そこで、本研究は、県内特別支援学級の現状を踏まえた「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を作成し、小・中学校教員に提示することを通して、特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に役立てようとするものである。

II 研究の方向性

小・中学校特別支援学級において、担当者が特別支援学級の教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する基礎的内容を理解し、実際の単元・授業づくり等を行うことができる県内小・中学校特別支援学級の現状を踏まえた「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の作成により、小・中学校における知的障がいのある児童生徒への適切な指導及び支援の充実に資する。

III 研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

- (1) 小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実にに関する基本構想の立案
- (2) 平成22年度特別支援学級教育課程届に見る県内の小・中学校特別支援学級の現状
- (3) 県内特別支援学級の現状を踏まえた「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の作成と指導実践
- (4) 県内特別支援学級の現状を踏まえた「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を使用した指導実践の分析と考察
- (5) 小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実にに関する研究のまとめ

2 研究の対象

北上市立上野中学校 特別支援学級

IV 研究結果の分析と考察

1 小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関する基本構想

小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関する基本的な考え方を以下に述べる。

(1) 小・中学校特別支援学級における特別支援教育の変遷

戦後の学校教育法体系の下、知的障がい教育では、生活単元学習等の領域・教科を合わせた指導が大きく位置付けられてきた。しかし、戦後最初期においては、生活単元学習等は決して今日のように重視されていたわけではなく、通常の学級で学業不振の児童生徒を対象に、学年段階を下げた教科の内容を時間をかけて繰り返し指導する、いわゆる「水増し教育」が展開されてきた。この水増し教育では、ややもすると、数年もかけて1桁から2桁のたし算を形式的操作により求めるといった活動に終始するということになることもあった。このような状況を品川区立大崎中学校分教場の実践に参加した山本晋は以下のように述べている。

【資料1】「精神遅滞児の生活教育」三木安正編（1951）

この授業法について、何か頼りない一抹の不安を抱いておったが丁度その頃、理論面で非常にすぐれたS先生が新任され、早々にして「彼等に机の上の計算をやらせて、一体どの程度身につくのか、彼等が社会へ出てから果たして実際のおつりの計算や買い物ができるのか」と猛然と突込まれた時には正に痛い処をつかれたと痛感した。（中略）そうしている中にも、テスト・ノートや努力帳（中略）が利用され、A先生につくられた計算問題や応用問題の豊富な教材によって、益々彼等の向学心？は刺戟され、先生の顔を見ると、「問題ちょうだい、ちょうだい」と追いかけてまわす有様であった。（中略）しかしながら、昭和25年3月に始めての卒業生を社会へ送り出す頃になって、一体彼らが社会の一員になるために十分な教育をしたといえるであろうか？教師としての私自身が、未だ、いわゆる古い学校教育の枠にとらわれ、学校ゴッコ的なものに終始しているのではないだろうか？ということが、且てS先生に指摘されたことと結びついて想起され、甚だしい不安と焦燥感にかられたのであった。

水増し教育への反省は、その実践を積み重ねる過程で、知的障がいのある児童生徒への独自性を指向していった。次第に教育関係者は、児童生徒の実生活を踏まえ、教育目標として社会自立を強く意識する「生活中心主義教育」へと移行し、いわゆる生活単元学習や作業学習を中心とした生活に根ざした教育（後の領域・教科を合わせた指導）を展開していった。この教育目標は、学校卒業後の実際的な生活を見据えた極めて現実的な目標であり、教育内容も具体的かつ実際的な内容となる。

しかしながら、1963年に制定された「養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編」では、学校教育法施行規則第73条の7、8の規定に従い、小・中学校に準じて教育内容が教科別、領域別に分析・整理して示された。ただし、各教科等によって教育内容が組織されてはいるものの、精神薄弱（知的障がい）教育における教科の意味は、普通教育のものとは異なることや、教科の全部または一部について合わせて授業を行うことができることが確認されたものの、教科指導が大きく位置付けられたり、合科授業即生活単元学習といった誤った考え方を強めることになってしまった。

このようなことから、2009年に編制された「特別支援学校学習指導要領」においては、総則において領域・教科を合わせた指導について示されるなど、知的障がい教育における領域・教科を合わせた指導の重要性をさらに強め、さらに大切に扱うようになった。

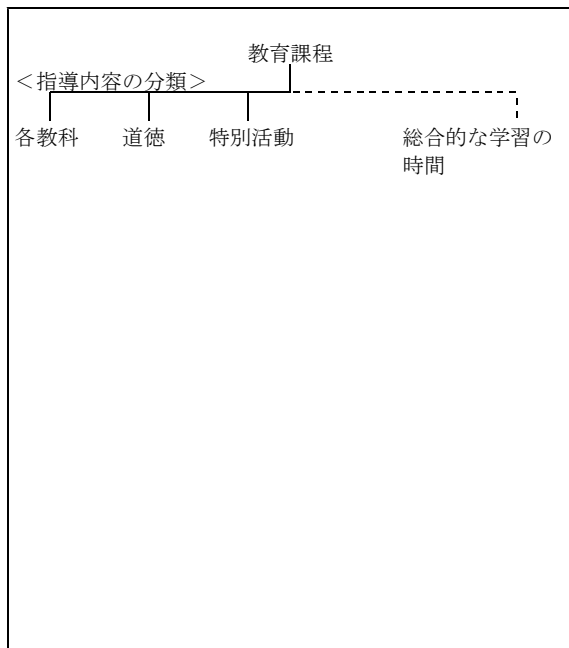
(2) 小・中学校特別支援学級における教育課程

小・中学校特別支援学級においては、学校教育法施行規則第73条の19により、小・中学校の通常の教育課程の指導内容の分類に準じるが、特に必要がある場合には、特別の教育課程を編成することができる」とされている。

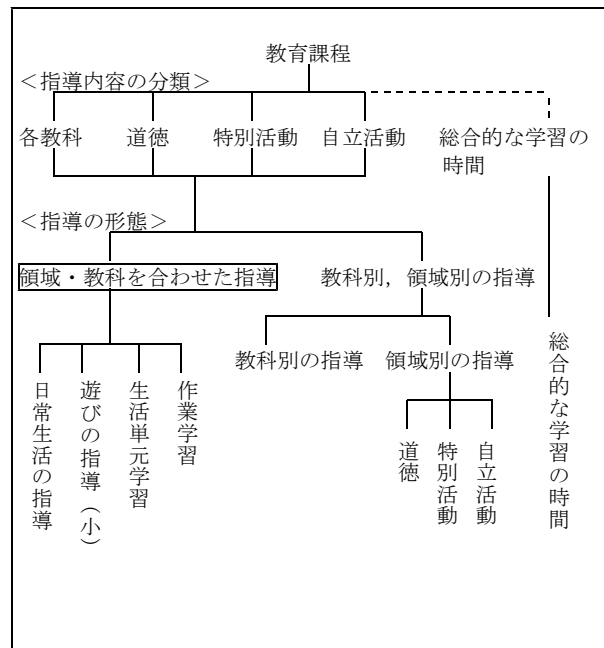
特別な教育課程とは、以下の通りである。

- ・各教科の目標や内容の一部を取り扱わないことができる。
- ・各教科を特別支援学校の各教科に替えることができる。
- ・各教科の目標・内容の全部又は一部を、下の学年の目標や内容に替えることができる。
- ・知的障がいあるいは重複障がいのある子どもを教育する場合には、必要に応じ、各教科、道徳、特別活動及び自立活動を合わせて指導することができる。
- ・学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした「自立活動」を取り入れることができる。

上記の中で、知的障がいのある児童生徒の場合、領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導、生活単元学習、作業学習等）を取り入れ、主旨を踏まえた学習指導を展開することが大切なのである。したがって、特別支援学級の担当者は、特別支援学校の教育課程の構造（【図2】）を理解し、参考にしながら知的障がい教育における教育課程を適切に編成することが求められる。



【図1】小・中学校教育課程の構造図



【図2】特別支援学校の小学部・中学部（知的障がい）教育課程の構造図

(3) 小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導

自立をめざす知的障がい教育では、各教科等の内容の指導を中心とするのではなく、生活の自立に必要な内容を中心としなければならない。そのため、領域・教科を合わせた指導では、生活活動を主たる教育内容として展開することと、「特別支援学校学習指導要領解説」（2009）では、以下のよう説明されている。

ア 日常生活の指導

「日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものである。」特別支援学級担任が、領域・教科を合わせた指導を理解し、児童生徒

の学校生活を充実・発展するという目標の下に、テーマに沿った学習内容や学習活動を組織的に展開することにより児童生徒は、自立的・主体的に存分に取り組むことにつながる。このようなことから、領域・教科を合わせた指導の確かな実践が求められている。

イ 遊びの指導

「遊びの指導は、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動をはぐくみ、心身の発達を促していくものである。」

ウ 生活単元学習

「生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実践的・総合的に学習するものである。」

エ 作業学習

「作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。」

(4) 小・中学校特別支援学級における課題

国立特別支援教育総合教育研究所の木村は、2006年に領域・教科を合わせた指導の一つである生活単元学習が、どのように理解され実践されているのかを整理し、生活単元学習の理解や教育課程上の位置付けが課題であるということを示した。この整理のための意見集約の対象となったのは、各都道府県における特別支援教育の推進の中核となる教職員の同研究所の長期・短期研修員である。つまり、現場において実践を積んだ中核となる教職員であっても、このような課題をもっているのである。「岩手県特別支援学級等設置学校長特別支援学校長及び担任者名簿」(2009,岩手県特別支援教育研究会)を基にした算出によると、岩手県の小・中学校特別支援学級担当教員の半数以上は、特別支援学級の経験が3年未満である。このことから、岩手県の小・中学校特別支援学級担当教員の多くは、国立特別支援教育研究所の長期・短期研修員以上に、生活単元学習の理解や教育課程上の位置付けについて課題をもったまま、日々の実践を行っていることが推察される。

また、小・中学校特別支援学級の多くは、在籍する児童生徒が、特別支援学級での学習に加えて、それぞれの実態に合わせて、通常の学級で教科等の学習に取り組んでいる。そのため、特別支援学級では、通常の学級の時間割に合わせて時間割を組んでいることが多く、同じ学級内においても、特別支援学級で過ごす時間が児童生徒によって異なっており、特別支援学級に在籍する児童生徒が全員揃う時間を設定することが難しくなることにつながっている。さらに、中学校においては、特別支援学級担当が特別支援学級以外の学級の教科を受け持っていることもあり、領域・教科を合わせた指導を教育課程に取り入れることができなかつたり、取り入れていたとしても特別支援学級に在籍する児童生徒全員が一緒に取り組むことができる時間になっていなかったりするなど、十分な指導・支援につながっていない現状がある。

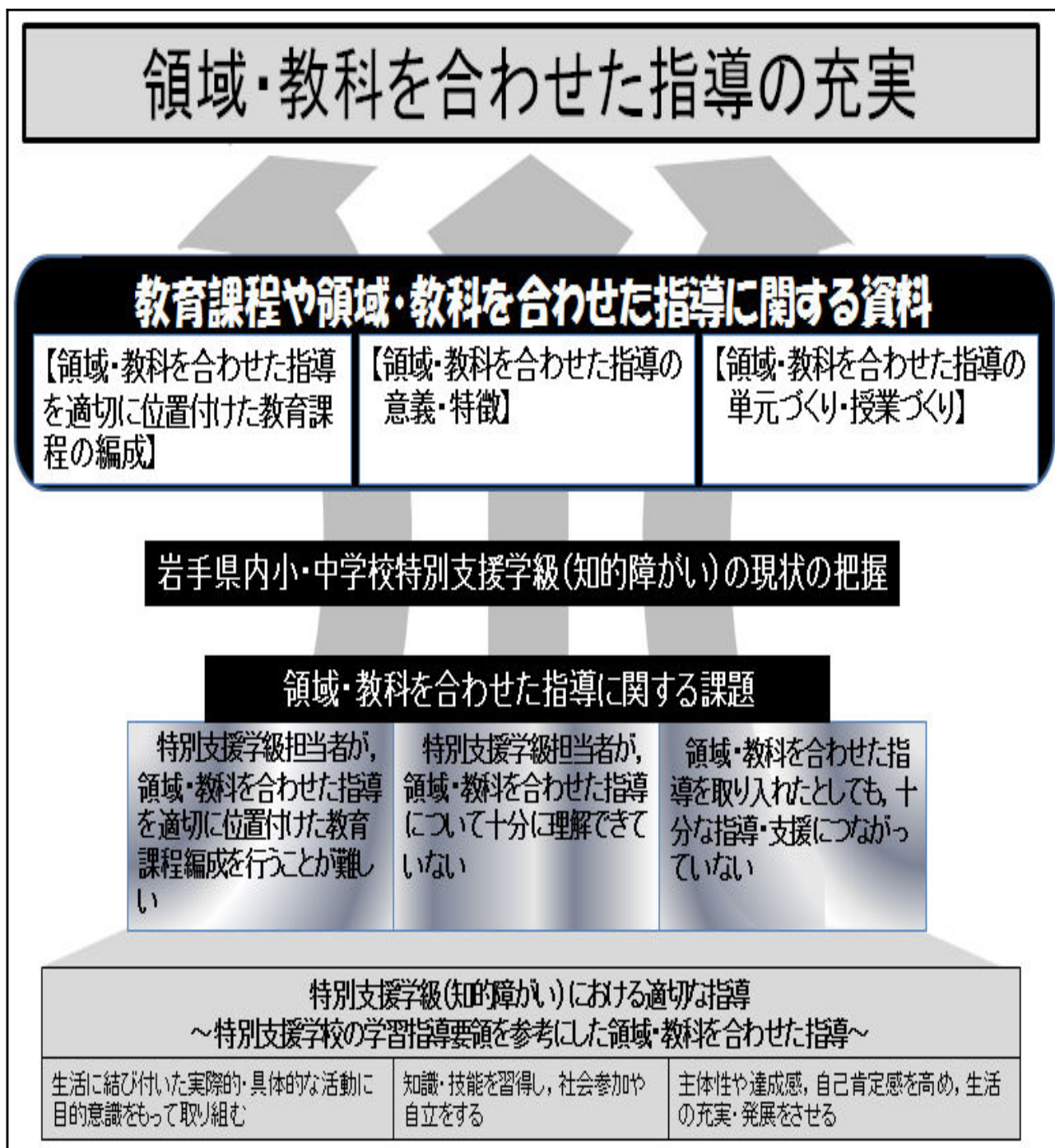
これらのことにより、特別支援学級に在籍する児童生徒は、通常の学級の学習内容を、受け身的に程度を下げながら学んでいるといった状況が多く見られ、生活に結び付いた実践的・具体的な活動に取り組むことが少なくなりがちである。

(5) 小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関する改善の視点

以上のことから、岩手県内小・中学校特別支援学級において、領域・教科を合わせた指導の充実を図るためには、以下のようなことが必要であると考えられる。

- ・岩手県内小・中学校特別支援学級の現状を把握すること
- ・領域・教科を合わせた指導の意義・特徴について示すこと

- ・領域・教科を合わせた指導を適切に位置付けることができる教育課程の編成方法を示すこと
 - ・領域・教科を合わせた指導の単元・授業づくりに関する資料を示すこと
- (6) 小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関する基本構想図
 小・中学校特別支援学級において、領域・教科を合わせた指導の充実に関する基本構想図を【図3】に示す。



【図3】 領域・教科を合わせた指導の充実に関する基本構想図

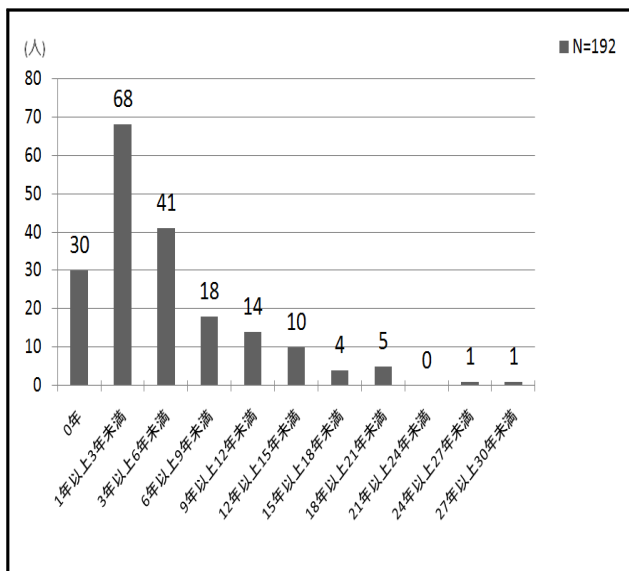
2 平成22年度特別支援学級教育課程届に見る県内の小・中学校特別支援学級の現状

(1) 現状把握の対象と方法

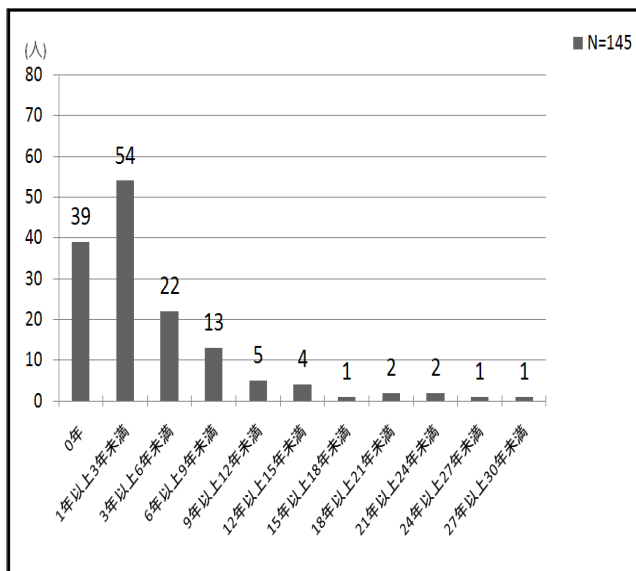
岩手県内の小学校知的障がい特別支援学級 185学級、岩手県内の中学校知的障がい特別支援学級 116学級からの「平成22年特別支援学級(知的障がい)教育課程届書」に基づいて集計した。

(2) 特別支援教育経験年数

特別支援教育の経験が3年未満の特別支援学級担当者の割合は、小学校では、【図4】に示す通り、51.0% (98名) となっている。また、中学校では、【図5】に示す通り、特別支援教育の経験が3年未満の割合が64.1% (93名) となっており、これらのことから、日々、どのように授業を展開すればよいのか、また、どのような有効な手立てがあるのか、半数以上の教員が分からないまま、日々指導していることが推察される。



【図4】小学校特別支援教育経験年数



【図5】中学校特別支援教育経験年数

(3) 特別支援学校教諭等免許状保有状況

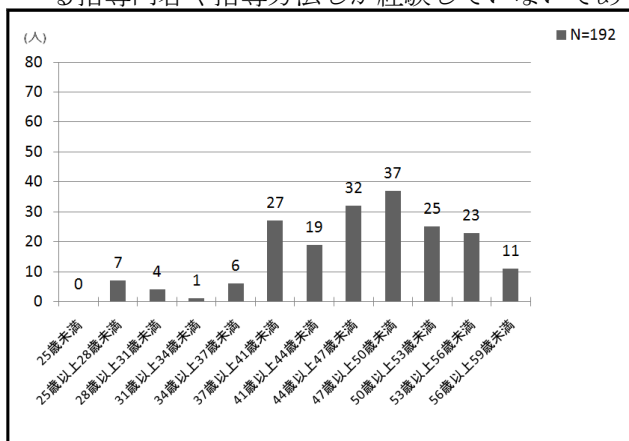
小学校特別支援教育担当の特別支援学校教諭免許状等保有率は38.7% (77名)。中学校では、わずか15.9% (23名) という状況である。

これらのことから、小・中学校共に特別支援教育に関する専門性は決して高いとはいえない状況であることが推察される。

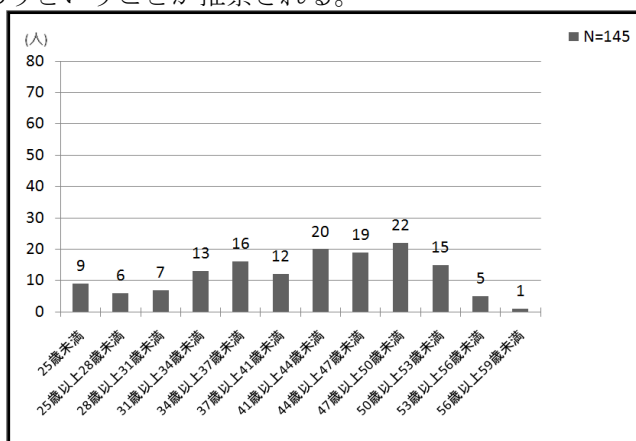
(4) 担当者年齢分布

小学校では、【図6】に示す通り、44歳以上の教員が66.7% (128名)、中学校では【図7】に示す通り42.8% (62名) となっている。

特に小学校では、50歳代が20%を超え、高い年齢構成となっている。特別支援教育の経験年数と併せて考えると、通常の学級のみを長い間担任して小・中学校の教科別の教育課程における指導内容や指導方法しか経験していないであろうということが推察される。



【図6】小学校特別支援学級担当者年齢分布



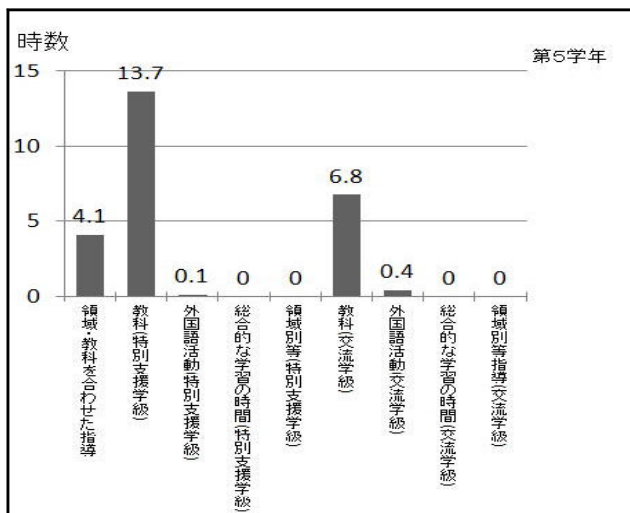
【図7】中学校特別支援学級担当者年齢分布

(5) 小・中学校特別支援学級の授業時数

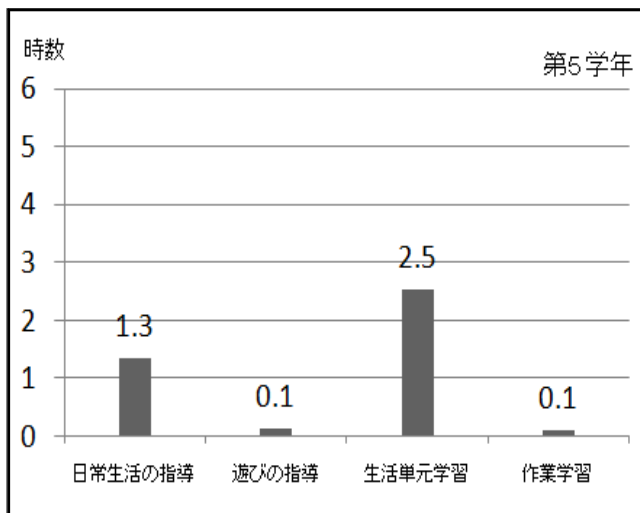
小学校では、領域・教科を合わせた指導の時数が、平均4.1時間であるが、一番時数の多い生活単元学習でも、週に2.5時間と、かなり少ない。領域・教科を合わせた指導は、子どもの思いや願いを尊重し、生活に結びついた実際の・具体的な学習活動を中心に据え、子どもが踏み出そうとしている方向を見定めての教育的な支援と生活経験を確かに積み上げていくものであるため、この時数では中心に据えることが難しいと思われる。

【図10】から小学校では、特別支援学級での授業時数が多いことがわかる。その内訳を見ると国語(5.4時間)と算数(4.8時間)が圧倒的に多い。一方で【図8】で示す通り、領域・教科を合わせた指導は、週あたり4.1時間の設定にとどまり、【図9】からその内訳を見ると、ほとんど設定されていないか、設定されていても1.3時間から2.5時間程度となっている。

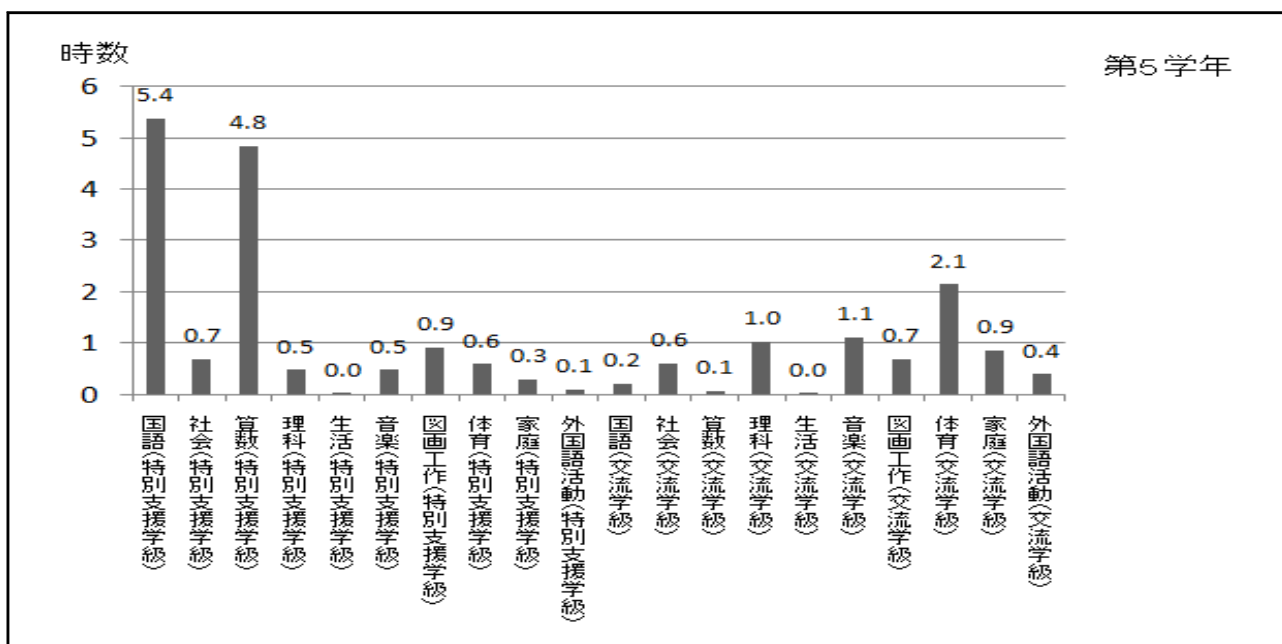
これらのことから、小学校特別支援学級では、国語と算数の基礎的な内容を扱うことが中心とされており、領域・教科を合わせた指導が、十分に機能する程度の時数を設定できていないものと考えられる。



【図8】 県内小学校特別支援学級における週あたりの平均授業時数 (第5学年)



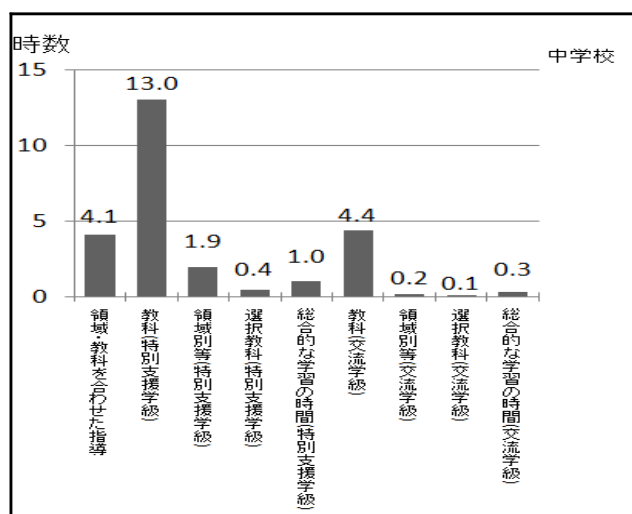
【図9】 県内小学校特別支援学級における週あたりの領域・教科を合わせた指導の平均授業時数内訳 (第5学年)



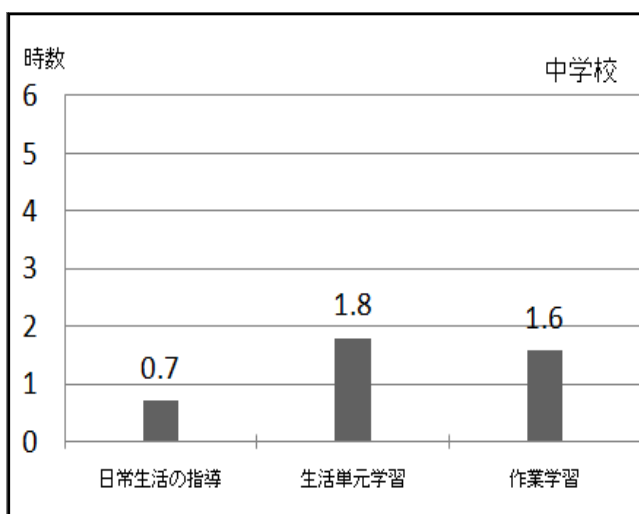
【図10】 県内小学校特別支援学級における週あたりの教科別平均授業時数 (第5学年)

中学校でも週平均4.1時間、領域・教科を合わせた指導の時数を確保しているが（【図11】）、一番多いのが、生活単元学習の1.8時間であり（【図12】）、小学校と同様の傾向が見られる。ただし【図13】からは、小学校よりも社会や理科、外国語の時数が多いことがわかる。このことは、高等学校入試を目指しての授業時数の設定と推察できる。しかし、平成21年度の進路状況（学校教育室調査）では、約90%の生徒が特別支援学校高等部や就労という高等学校以外の進路である。

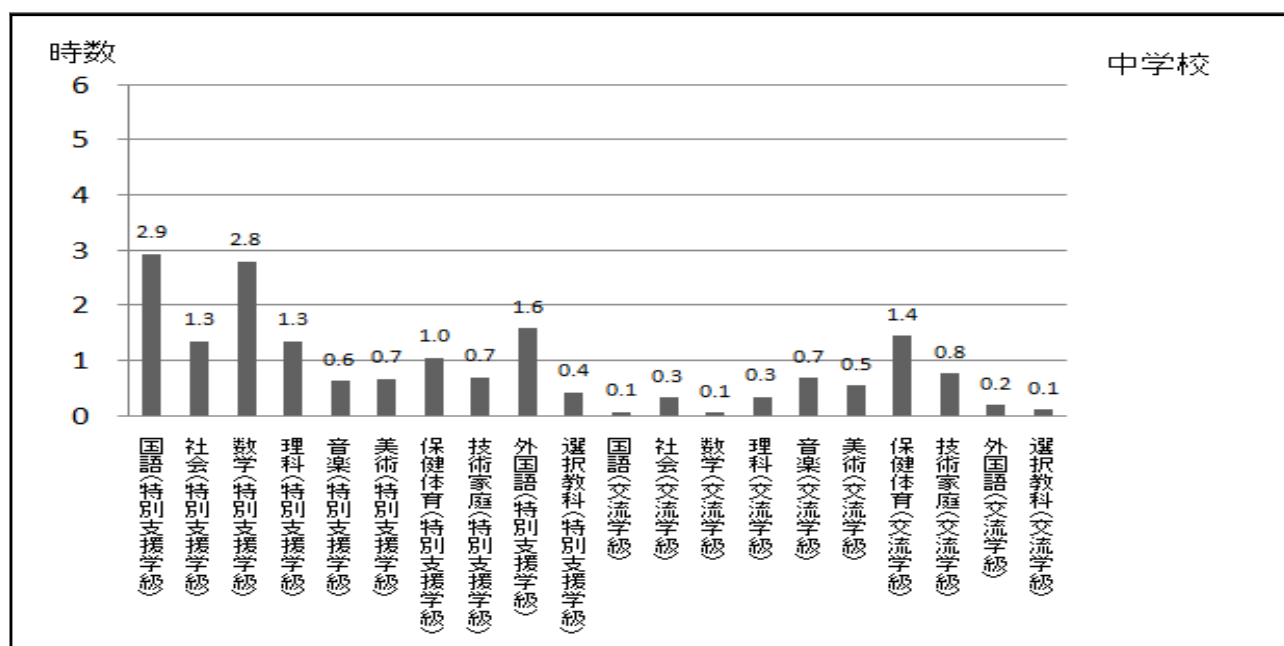
これらのことから、中学校特別支援学級では、各教科の内容を扱うことが中心とされているものの、十分な基礎的知識を習得することは困難であり、高等学校への進学に、なかなか結びつかない現状にあることが推察される。また、領域・教科を合わせた指導の時間も、それぞれ0.7時間から1.8時間程度であり、生徒の社会参加や自立を見据えた、生活に根ざした教育を十分に展開できていない現状にもある。



【図11】 県内中学校特別支援学級における週あたりの授業時数



【図12】 県内中学校特別支援学級における週あたりの領域・教科を合わせた指導の平均授業内訳



【図13】 県内中学校特別支援学級における週あたりの平均授業時数

(6) 教育課程編成届書に見る特別の教育課程

小・中学校共に、教育課程の概要に領域・教科を合わせた指導のいずれか（日常生活の指導・遊びの指導・生活単元学習・作業学習）が記載されているものの、実際の教育課程には授業時数が0であったり、教育課程の概要にはない領域・教科を合わせた指導の授業時数を入れていたりという届が散見された。また、教育課程の概要において、領域・教科を合わせた指導の位置付けが整理されていない学校も見受けられた。教育課程の理解や編成作業の方法等を十分に理解できずにいる担任等が少なくはないものと考えられる。

(7) 県内の現状を踏まえた、領域・教科を合わせた指導の充実のための改善の視点

ア 領域・教科を合わせた指導を適切に位置付けた教育課程の編成

(ア) 知的障がい教育の理解を図る資料の提示

県内の特別支援学級担任の現状を見ると、多くの教員が、特別支援教育に携わった経験年数が少なかったり、特別支援学校教諭等免許状を保有していなかったりすることから、知的障がいのある児童生徒の特性等を含めた、知的障がい教育についての理解を図る必要があるものと思われる。

そこで、知的障がいのある児童生徒の困難さや、基本的な対応についてなどの理解を図る資料を提示する必要があると考える。

(イ) 特別支援学級における教育課程の理解を図る資料の提示

県内の特別支援学級担任の現状を見ると、前述の通り、多くの教師が特別支援教育に対する理解が十分ではない。その一方で、年齢構成が高く、小・中学校の教育課程については十分に理解していることから、通常の学級における教科中心の教育課程を特別支援学級に十分検討しないまま、準用していることが考えられる。

そこで、特別支援学級における教育課程の在り方について、説明や図などを活用することにより、多くの教師にとって理解できるような資料の提示が必要であると考ええる。

(ウ) 領域・教科を合わせた指導の理解を図る資料の提示

特別支援学級における教育課程を概観できたとしても、領域・教科を合わせた指導のそれぞれのよさについて理解できていなければ、充実した授業実践にはつながらない。

そこで、領域・教科を合わせた指導の理解を図るために、定義を明確に提示し、いくつかの具体例をあげた資料を提示する必要がある。

(エ) 領域・教科を合わせた指導を適切に位置付けた教育課程編成への支援

小・中学校において教育課程を実際に編成する作業は、教務主任を中心としながら行うことが多いものと思われる。県内の特別支援学級担任の現状を見ると、長年通常の学級において指導してきたとしても、教育課程を編成したことがある教員は多くはないようである。したがって、実際に特別支援学級の教育課程を編成する際に、どのような指導の形態を教育課程に位置付けるか、時数はどの程度設定するかなど、つまづくことが予想される。

そこで、(ア)～(ウ)の理解を踏まえ、教育課程を編成する際に、「知的障害の状態や経験等に応じて」教育課程の作成ができるよう、教科や領域、領域・教科を合わせた指導等の選択や、時数計算の支援をコンピュータによって可能にする資料を提示する必要があると考える。

イ 領域・教科を合わせた指導を適切に位置付けた教育課程による実践のために

(ア) 領域・教科を合わせた指導実践ソフトの提示による単元計画・実践への支援

児童生徒や学校・学級の実態を踏まえた上で、単元を計画するに当たっては、どのような学

習内容や学習活動が考えられるのか、その学習内容や学習活動における目標はどのように設定すればよいのかなどについて検討しなければならない。繰り返しになるが、特別支援教育の経験年数が少なかったり、領域・教科を合わせた指導を適切に実践していなかったりする教師にとっては、これらのことを十分に検討できなかったり、誤った方針を立ててしまう恐れがある。さらには、領域・教科を合わせた指導について実践するに当たって、一単位時間における児童生徒への支援の最適化も図っていかなければならない。

そこで、領域・教科を合わせた指導の単元例等についてを資料として示し、単元を計画したり児童生徒への支援の最適化を図るための指導計画を作成したりすることを援助することが必要である。

(イ) 領域・教科を合わせた指導実践ソフトの提示による評価・改善への支援

日々の実践を次なる実践のために生かしていくことは、学校生活の充実や児童生徒の成長などのために大切であることは言うまでもない。したがって、児童生徒の学習活動の様子等から、学習内容や学習活動における目標や、教師の指導・支援は適切であったか、次なる活動への発展はどのように考えたらよいのかなどについて検討することが必要である。

そこで、単元の目標や手立てについて、授業における児童生徒の姿から評価し、次なる単元や授業へ活用できるような資料を提示する必要があると考える。

3 県内特別支援学級の現状を踏まえた「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の作成と指導実践

(1) 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の構成

ア 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」について

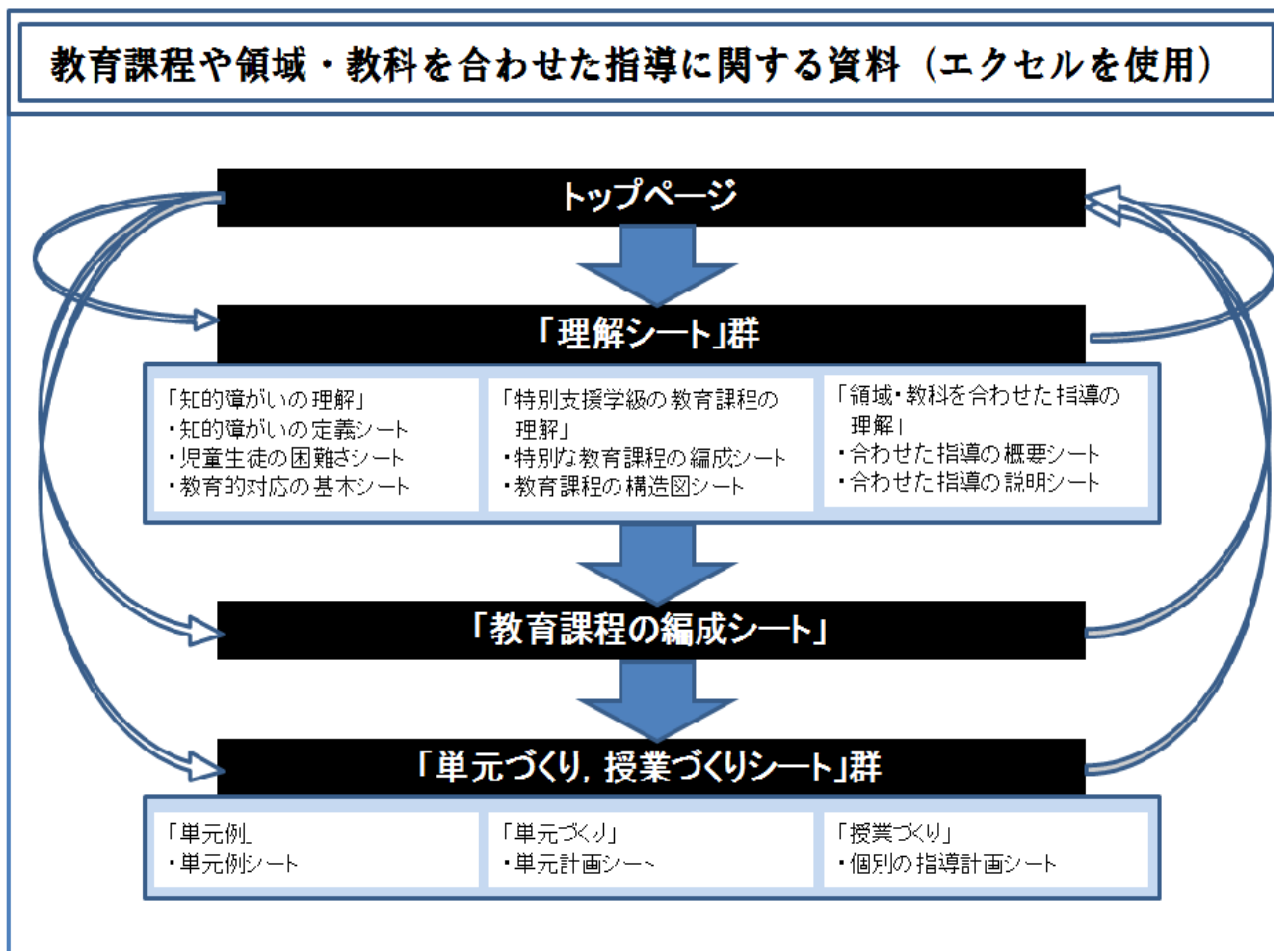
「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」は、表計算ソフト「エクセル」を使用し、トップページ、「理解シート」群、「教育課程の編成シート」、「単元づくり、授業づくりシート」群の各シート群で構成する。

「理解シート」群は、知的障がいや、領域・教科を合わせた指導、教育課程についての基本的な理解を図るものである。

「教育課程の編成シート」は、対象となる児童生徒が在籍する学年の標準授業時数や、小・中学校及び特別支援学校の指導形態を参考にしながら、何の指導形態をどの程度、教育課程に位置付けるか検討するためのものである。

「単元づくり、授業づくりシート」群は、「単元例シート」をもとに、実際に単元計画を作成するためのものである。また、「個別の指導計画シート」により、計画した単元を実践するに当たって、児童生徒一人一人の実態を基に目標や手立てを記述し、より適切な指導や支援につなげる。単元終了後には、単元での児童生徒の様子を踏まえて評価することにより、児童生徒のさらなる実態把握へとつながるものである。

「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の構成を11頁【図14】に示す。

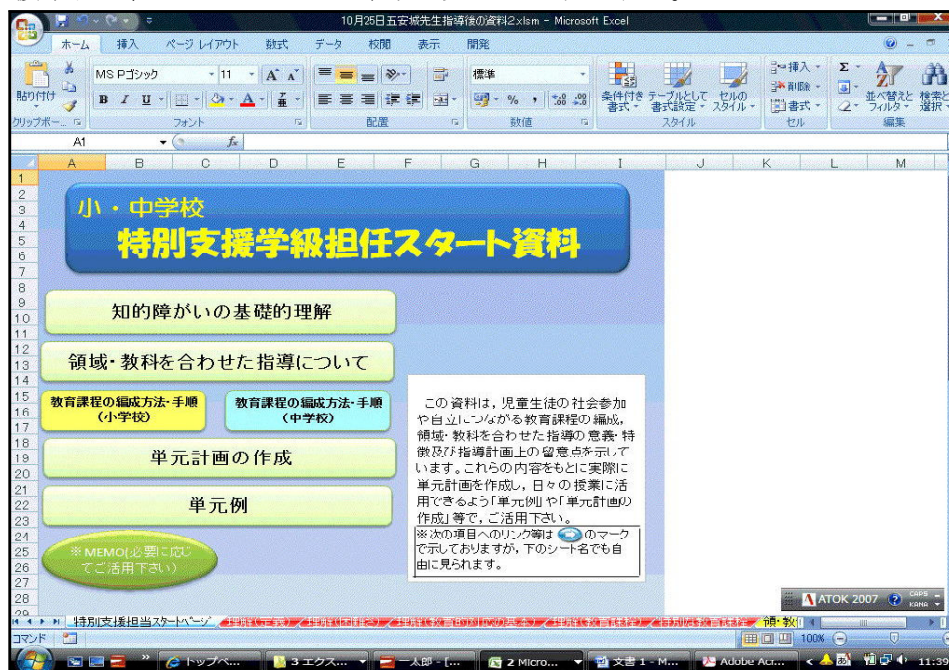


【図14】「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の構成

イ 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の使用の流れ

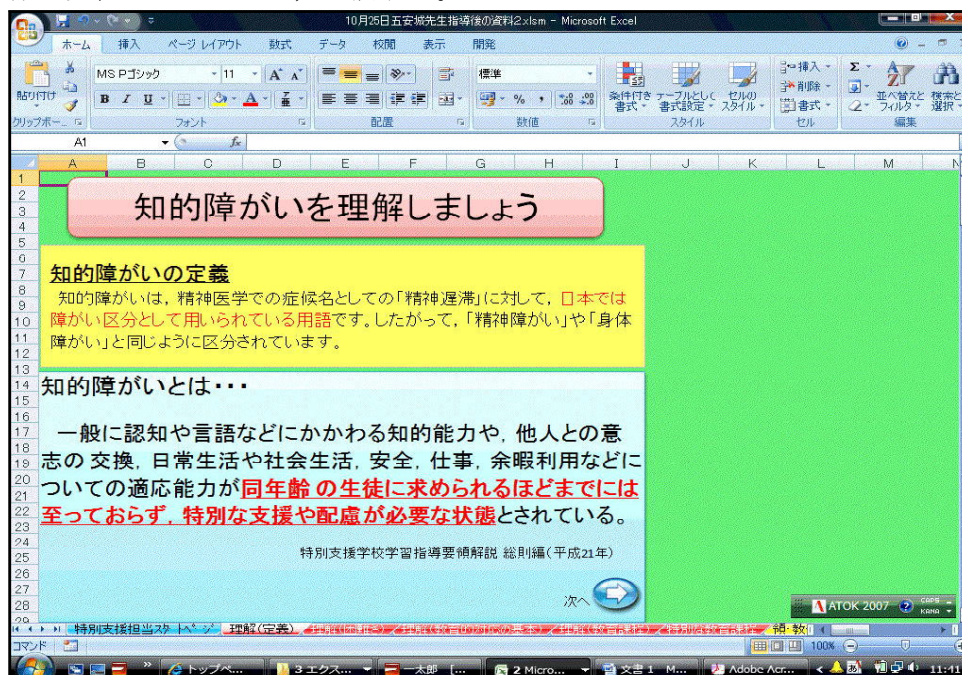
特別支援学級の児童生徒の場合は、就学に関する資料や、これまでの学習の蓄積、保護者からの情報等により総合的な実態把握が行われていることが多い。これらの児童生徒一人一人の総合的な実態把握を基にしながら、【図15】から【図23】の各シートによって領域・教科を合わせた指導の計画・実践・評価を行うことになる。

【図15】は、本資料のトップページである。特別支援学級担任が、「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を使用するに当たって、資料の構成を把握することができるよう、本資料の主な内容をボタンとして位置付ける。それぞれのボタンをクリックすることにより、知りたい情報等を選択できるようにする。なお、この資料の名称を「小・中学校特別支援学級担任スタート資料」として、特別支援学級担任にとって身近な印象を受けるようにする。



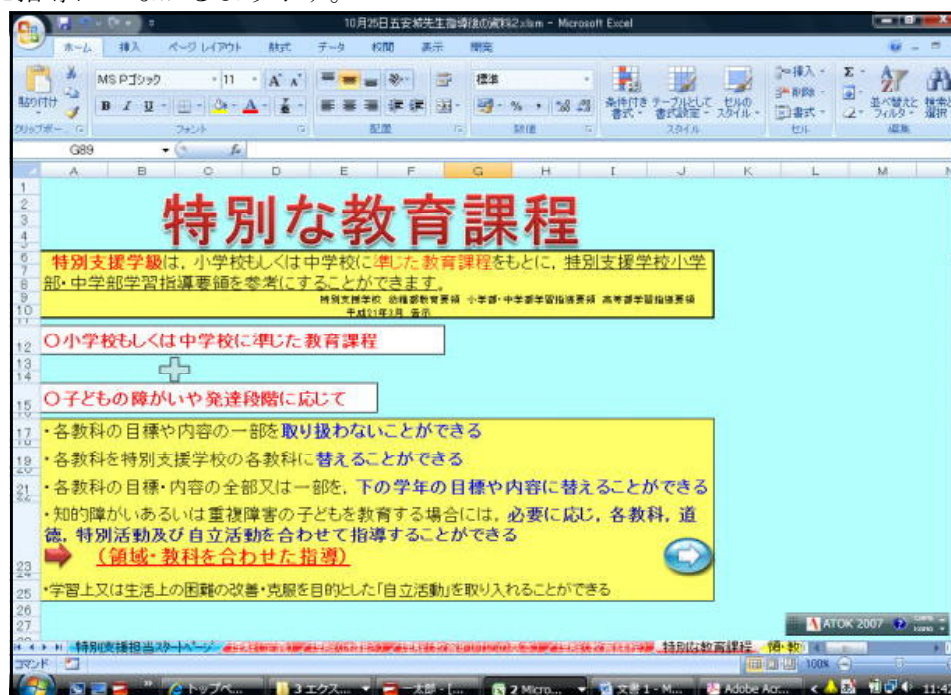
【図15】 トップページ

特別な教育課程が、知的障がいのある児童生徒に適した指導の形態であることは、先に説明した通りである。そこで【図16】のように、特別支援学級担任が、在籍する児童生徒の知的障がいについて、はじめに理解できるようにする。大切な箇所について印象付けることができるよう、鮮やかな色合いにしたり字体を変化させたりして、強調する。



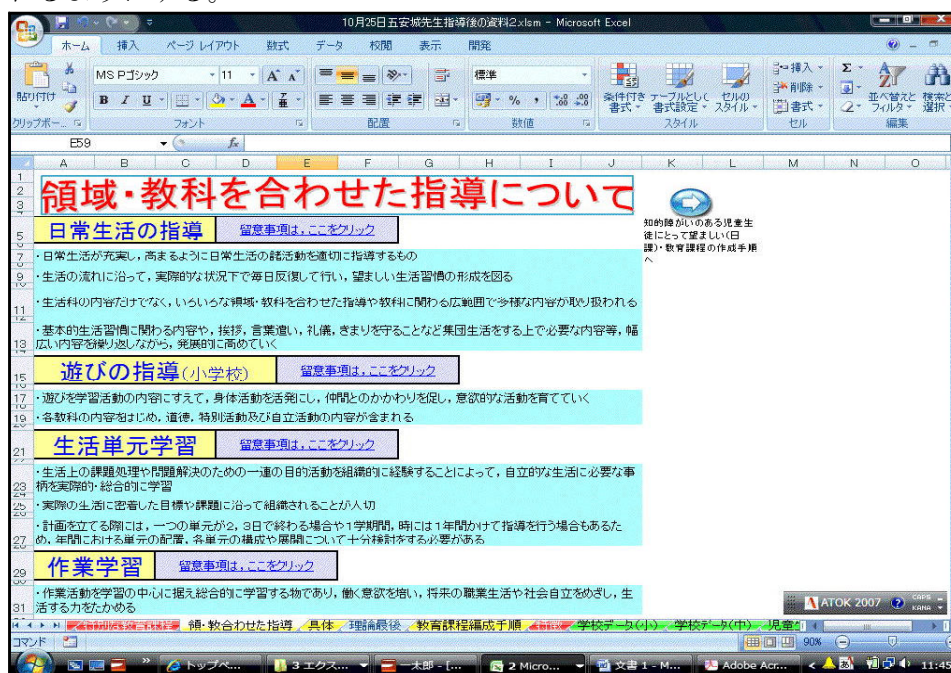
【図16】 知的障がいの定義シート

【図17】は、特別な教育課程の編成について理解するためのページである。特別支援担当になった教師が、児童生徒の実態に合わせて作成しなければならない教育課程について、基本的な知識を理解できるように示す。その上で、知的障がいのある児童生徒にとって適切な指導形態である、領域・教科を合わせた指導につながるよう示す。



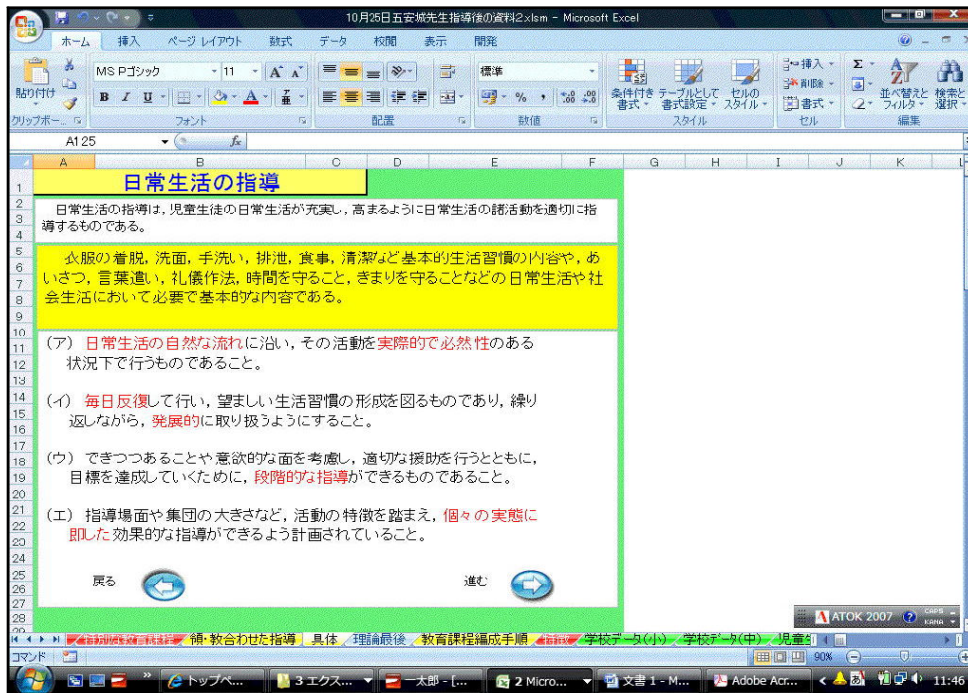
【図17】特別な教育課程の編成シート

【図18】は、領域・教科を合わせた指導について基本的な考え方を示したシートである。日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習のそれぞれの概要が書かれてある。さらに理解を進めることができるよう、「留意事項はここをクリック」というボタンを設定し、クリックするとより詳しい説明が表示されるようにする。



【図18】合わせた指導の概要シート

【図19】は、【図18】の日常生活の指導の「留意事項は、ここをクリック」を押した際に表示されるシートである。このように、領域・教科を合わせた指導の内容について、具体的に示す。



【図19】合わせた指導の説明シート（日常生活の指導）

【図20】は、特別支援学級の年間時数を計算するシートである。学年ごとに異なる枠が示されている（小学校第1学年から中学校第3学年までの九つの枠）。各教科や領域、領域・教科を合わせた指導ごとに区切られており、週当たりの指導時数に数字を入力することで、年間時数等が自動的に計算される。各学年の標準授業時数をもとに、不足分の授業時数が示されるようにする。



【図20】教育課程の編成シート

【図21】の「単元例シート」と【図22】の「単元計画シート」は、互いにリンクしている。

特別支援学級担当者が「単元例シート」から児童生徒の実態や興味・関心に合わせて取り組みたい単元を選択することにより、その単元の詳細が、「単元計画シート」に表示される。

単元例シート	単元計画シート
1 sheet1 学校祭での販売・作品展示しよう	生徒ができるリーダーで取り組むことができるような活動の工程を考え、写真立て制作をする
2 sheet2 生活単元学習 生徒会役員選挙しよう	生徒の自主性、社会性、協働性を養い、自分の役割や責任を理解しながら行動できる生徒の育成を目指し、毎月一回、第三月曜日の五時間目「特別活動」の時間「生徒会活動」を行っている
3 sheet3 作業学習 わりばし入れをつくらう	わりばしを袋に分別し袋に入れる
4 sheet4 作業学習 子どもへの理解のあるヘルパーと、関わり合いながら生活訓練	子どもへの理解のあるヘルパーと、関わり合いながら生活訓練
5 sheet5 生活単元学習 私たちの製品を販売しよう	各自の製品作り、展示、販売
6 sheet6 作業学習 形で遊ぼう	生活上見られるつまづきの改善を目指し、一人ひとりの実態に応じた目標を設定し、指導
7 sheet7 作業学習 形で遊ぼう	見本と同じ立体(箱の形、筒の形、ボールの形など)を教室の中から見つけ出す
8 sheet8 作業学習 形で遊ぼう	教師が参考例をつくり、同じものを完成させる
9 sheet9 作業学習 真ん中に貼ろう	箱の中央にラベルを真ん中貼るための方法を考える
10 sheet10 作業学習 しっかりつかもう	お皿の持ちやすさがわかる
11 sheet11 作業学習 歯磨きしよう	手順カードを使って歯を磨く指導
12 sheet12 日常生活の組織 おつかい(プリント届け)	プリントを二階の教室から一階の教材室のレターボックスに取りに行く
13 sheet13 日常生活の組織 全校で取り組む「話す・聞く」「読む」「書く」指導	朝のショートタイムでトレーニング
14 sheet14 生活単元学習 母親へ手紙を書く	プリント教材を使った工夫
15 sheet15 生活単元学習 文字と物の名前前のマッチング	※文字と物の名前がマッチングすることで、視覚的支援が理解しやすくなることを目的に、自立課題とした
16 sheet16 生活単元学習 100並べボードで数並べ	十の位の表作りに気づく

【図21】単元例シート

【図22】は、単元における取り組み内容と、担当する生徒の割り当てを明確にしなが、単元を計画するシートである。「単元例シート」から取り組み内容が転記されるものの、特別支援学級担当者が、自分で新たに入力することも可能である。

取り組み内容	担当生徒	4/11	4/12	4/13	4/14	4/16	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24
① 新聞書きのルールを覚える	全員	→	→	→	→							
② 新聞名作成	全員	→	→	→	→							
③ 大見出し作成	N	→	→	→	→							
④ レタリング係	H/S			→	→	→	→					
⑤ 文面作成割り当て	N			→	→							
⑥ 絵や写真の挿入	M			→	→							
⑦ 飾り枠の案と作成	S			→	→							
⑧ 原稿の準備	先生			→	→							
⑨ ア:メンバー紹介	N			→	→	→	→	→	→			
⑩ イ:趣味・特技	全員			→	→	→	→	→	→			
⑪ ウ:教室の環境“遊び”おいでよ”	H/S			→	→	→	→	→	→			
⑫ エ:交流学級での授業	M			→	→	→	→	→	→			
⑬ オ:あとがき	R									→	→	
⑭ 原稿の校正	全員							→	→			
⑮ 原稿の下書き	全員	→	→	→	→							
⑯ 読み合わせ	全員							→	→			
⑰ レイアウト	N			→	→							
⑱ 本書き	R									→	→	
⑳ 印刷	全員										→	→
㉑ 配布	全員											→

【図22】単元計画シート

【図23】は、「個別の指導計画シート」である。単元内の学習活動において、児童生徒の具体的な活動を想定し、各項目を参考にして、児童生徒の実態や目指す姿、手立てを一人一人の枠に記入することができるようにする。各項目は枠内に示されているものの、すべてに記入するというものではなく、単元において、あるいは児童生徒に応じて焦点化した項目のみに記入するものである。（盛岡市立仁王小学校（2007）、『社会生活構成要素』を参考）



【図23】 個別の指導計画シート

(2) 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を使用した指導実践
ア 指導実践の概要

平成22年11月24日から12月3日まで、北上市立上野中学校特別支援学級で指導実践を行った。指導実践の日時、担当者を示したのが【表1】である。

【表1】 指導実践の概要

日時	内容	担当者等
11月24日(水)	指導実践のためのオリエンテーション	A教諭, B教諭, C教諭
11月25日(木)	指導実践① 資料の概要確認	A教諭, B教諭
11月26日(金)	指導実践② 単元・授業計画	B教諭, C教諭
11月29日(金)	指導実践③ 単元・授業準備	A教諭, B教諭, C教諭
生活単元学習「日頃お世話になっている人を招いてクリスマス会を開こう」		
11月30日(火)	指導実践④	A教諭, B教諭, C教諭, 副校長
12月1日(水)	指導実践⑤	A教諭, B教諭, C教諭
12月2日(木)	指導実践⑥	A教諭, B教諭, C教諭, D教諭 副校長
12月3日(金)	指導実践⑦	A教諭, B教諭, C教諭
12月6日(月)	指導実践⑧	A教諭, B教諭, C教諭
12月7日(火)	指導実践⑨	A教諭, B教諭, C教諭
12月8日(水)	指導実践⑩	A教諭, B教諭, C教諭, 副校長
12月9日(木)	指導実践⑪	A教諭, B教諭, C教諭, 副校長
12月10日(金)	指導実践⑫	B教諭, C教諭, 副校長
12月13日(月)	指導実践⑬	A教諭, B教諭, C教諭, 副校長
12月14日(火)	指導実践⑭	A教諭, B教諭, C教諭, 副校長
12月15日(水)	指導実践⑮	A教諭, B教諭, C教諭
12月16日(木)	指導実践⑯	A教諭, B教諭, C教諭
12月17日(金)	指導実践⑰	A教諭, B教諭, C教諭, 副校長
12月20日(月)	指導実践⑱	A教諭, B教諭, C教諭, E教諭
12月21日(火)	指導実践⑲	A教諭, B教諭, C教諭, E教諭
12月22日(水)	指導実践⑳ 資料使用に関する感想	A教諭, B教諭, C教諭

※A教諭：特別支援学級担任，B教諭：特別支援学級担任，C教諭：特別支援学級副担任，D教諭：家庭科担当教諭
E教諭：音楽科担当教諭

イ 指導実践の分析と考察

使用場面と「使用するシート」	「使用したシート」と教師・生徒の様子 (○: 成果 ▲: 課題)
<p>理解場面</p> <p>※11月24日 (水)</p> <p>「トップページ」</p> <p>「知的障がいの定義シート」</p> <p>「児童生徒の困難さシート」</p> <p>「教育的対応の基本シート」</p> <p>「特別な教育課程の編成シート」</p> <p>「教育課程の構造図シート」</p> <p>「合わせた指導の概要シート」</p> <p>「合わせた指導の説明シート」</p> <div data-bbox="181 645 523 779" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【シート使用のねらい】</p> <p>知的障がい、領域・教科を合わせた指導、教育課程についての基本的な理解を図る。</p> </div>	<p>「トップページ」</p> <p>○特別支援学級担任が使用した。「小・中学校特別支援学級担任スタート資料」ということから、楽しみに使用する様子が見られた。</p> <p>▲「どのボタンをクリックしてよいのか分からない。」と、特別支援学級担任がつぶやいた。</p> <p>「知的障がいの定義シート」、「児童生徒の困難さシート」、「教育的対応の基本シート」</p> <p>「特別な教育課程の編成シート」、「教育課程の構造図シート」</p> <p>「合わせた指導の概要シート」、「合わせた指導の説明シート」</p> <p>○在籍する生徒一人一人を思い出し、日常感じている生徒の言動に対する疑問が解けた様子であった。</p> <p>○重要事項をまとめたソフトによる特別支援教育の理論編では、今までの生徒の行動の様子や、教師自身の支援の仕方について、振り返りができ、教える・教えなければならぬというスタイルであったことに気付いたという発言があった。</p> <p>▲使用方法が分かりにくく、さらに1枚のシートに文が多く、聞いたことのない言葉もあることから、ポイントがつかみにくいという意見や、首をかしげる様子が見られた。</p> <div data-bbox="555 853 1417 1048" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【修正・改善の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初のスタートシートに使用方法を記載する。 ・文字数を減らしたり文章を短くしたりする。 ・ポイントを絞り、1枚のシートからの情報量を減らし、シートの構成を再検討する。 ・字体・ポイント・大きさ・色の工夫により、読みやすくする。 </div>
<p>教育課程編成場面</p> <p>※11月25日 (木)～11月26日 (金)</p> <p>「特別な教育課程の編成シート」</p> <p>「教育課程の構造図シート」</p> <p>「教育課程の編成シート」</p> <div data-bbox="181 1301 523 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【シート使用のねらい】</p> <p>何の指導形態をどの程度、教育課程に位置付けるか検討する。</p> </div> <p>「教育的対応の基本シート」</p> <p>「合わせた指導の概要シート」</p> <p>「合わせた指導の説明シート」</p> <p>※必要に応じて使用</p>	<p>「教育課程の編成シート」、「教育課程の構造図シート」、「教育課程の編成シート」</p> <p>○適切な教育課程を編成するためには、教師が教育課程を理解し、事前に保護者と十分に話し合うことが必要だということを感じたという発言があった。</p> <p>○教育課程の参考例が提示してあったので、理解につながったとの発言があった。</p> <p>○年度はじめの教育課程の編成につながるよう、次年度の教育課程の編成を検討することが必要であるという発言があった。</p> <p>▲教師自身は適切な教育課程の編成について理解したが、高等学校進学を意識している生徒や親に、領域・教科を合わせた指導の重要性を上手く伝えられるか自信がないという意見があった。</p> <p>▲通常の学級の教育課程を編成されてから、特別支援学級の教育課程を編成することになるという実情があり、特別支援学級の考え方を実現することが難しいという意見があった。</p> <p>「教育的対応の基本シート」</p> <p>「合わせた指導の概要シート」</p> <p>「合わせた指導の説明シート」</p> <p>○領域・教科を合わせた指導を教育課程に位置付けたいが、これまで続けてきた教科指導の流れや、高等学校進学を目指したいという考えもあり、難しいという発言があった。再度、「教育的対応の基本シート」に戻り、知的障がいのある生徒に適した教育課程について再確認し、納得できたようであった。</p> <div data-bbox="555 1809 1417 1966" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【修正・改善の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な教育課程の編成についてポイントを絞って、具体的に記述する。 ・学校全体の教育課程とのかかわりの基にして、特別支援学級の教育課程を適切に編成できるような手続きの仕方を、新たにシートに盛り込む。 </div>
<p>単元計画場面</p> <p>※11月25日 (木)～11月26日 (金)</p>	<p>「単元例シート」</p> <p>○データベースを使用したところ、イメージ化ができ、季節やその時期の特徴、行事を生かした多くの単元の案</p>

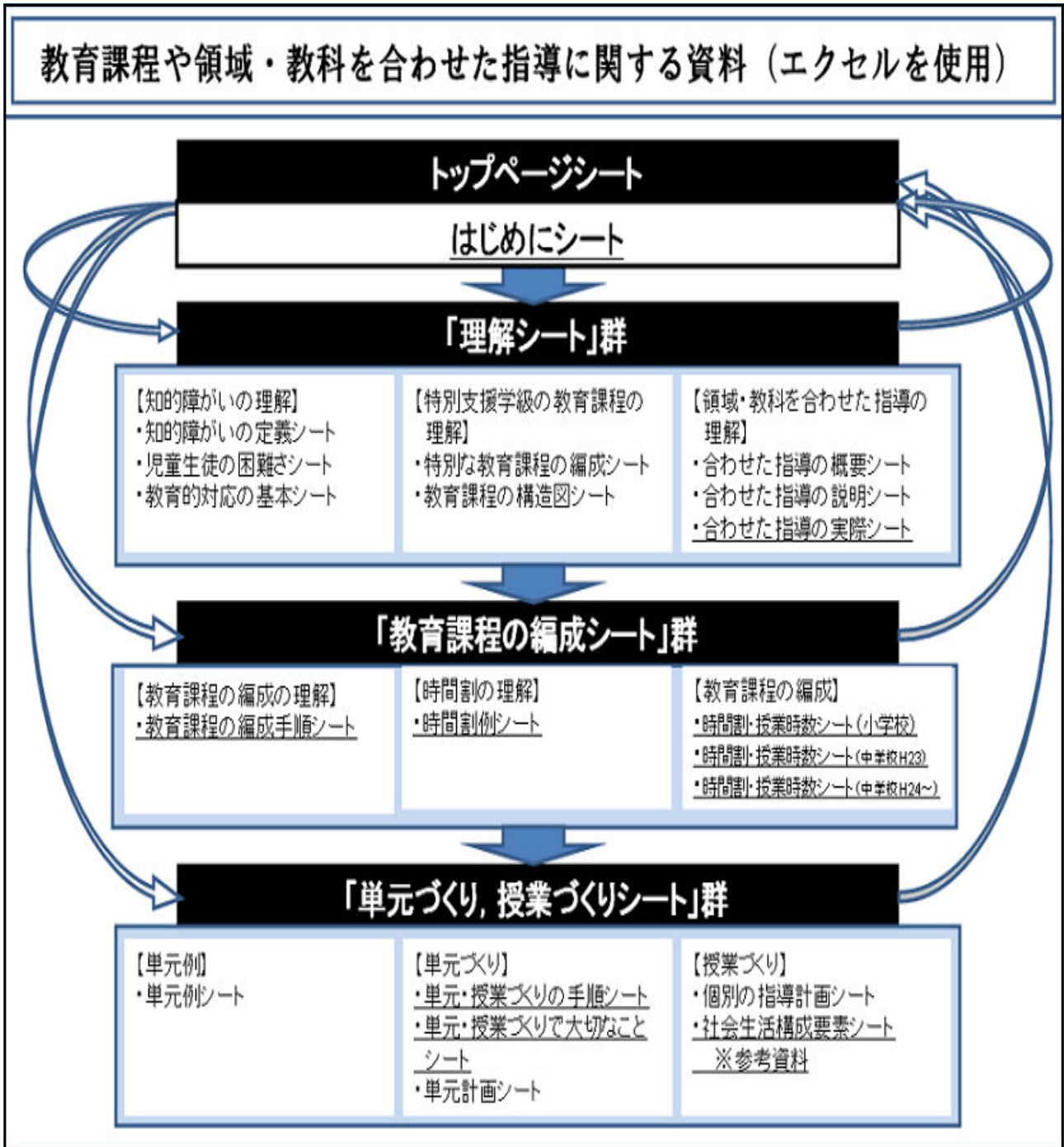
<p>「単元例シート」 「単元計画シート」 「個別の指導計画シート」</p> <div data-bbox="178 286 523 515" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【シート使用のねらい】 単元例を基に実際に単元計画を作成する。 一人一人の実態を基に目標や手立てを記述し、より適切な指導や支援につなげる。</p> </div> <p>授業場面 ※11月29日（金）～12月22日（水） 「個別の指導計画シート」</p> <div data-bbox="178 1214 523 1332" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【シート使用のねらい】 日常の授業実践における、適切な指導や支援につなげる。</p> </div>	<p>が教師自身から出てきた。</p> <p>○「こんなことしてもいいんだ」と積極的な活動計画が出された。</p> <p>「単元計画シート」</p> <p>○資料による単元作成中、生徒一人一人の実態を踏まえて、この単元では教師からの提示ではなく、生徒に考えさせてみたいというアイデアが生まれた。ただし、教師があらかじめ予想される活動を想定しておくことは大切であろうという意見が出た。</p> <p>○生徒が生き生きと計画する姿を見て、教師自身も楽しんで活動する姿へと変わっていき、生徒と教師が一体となって活動する様子が見られた。</p> <p>▲活動に使用する教材教具や経費等を「単元計画シート」に記録できるとよいという意見があった。</p> <p>▲個人の活動と全体で活動する場面があることから、「単元計画シート」に生徒の氏名と矢印で活動するかどうかを表すことにしたが、作業の繁雑さから活用されていなかった。</p> <p>「個別の指導計画シート」</p> <p>○修正、加筆など、コンピュータの特性を生かしてコピーしたり貼り付けしたりして、短時間で作成することができていた。</p> <p>▲コンピュータの使用に慣れていない教師は、知っている教師に頼んで書き換えをしていた。</p> <p>▲個別の指導計画を作成するに当たって参考となる資料があればよいという意見があった。</p> <div data-bbox="555 873 1417 1070" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【修正・改善の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「単元計画シート」に活動に使用する教材教具を記録することができるスペースを盛り込む。 ・「単元計画シート」に個人毎の活動を表す欄を削除するなど、単元計画の作業を減らすことにする。 ・コンピュータの使用に不慣れな方でも作業できるよう、データ参照や吹き出しを使うなどする。 ・個別の指導計画を作成するに当たって参考となる資料を、別シートに盛り込む。 </div> <p>「個別の指導計画シート」</p> <p>○個別の指導計画を作成してから授業に臨んだことにより、一人一人に対する具体的な指導や支援を行うことができた。</p> <p>▲少なくとも1ヵ月前には計画を練らないと対応できないという発言があった。</p> <div data-bbox="555 1310 1417 1438" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【修正・改善の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を含めた単元計画について、いつ頃から行えばよいのか、単元作成の手順について別シートとして盛り込む。 </div>
<p>単元終了場面 ※12月22日（水） 「個別の指導計画シート」</p> <div data-bbox="178 1617 523 1774" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【シート使用のねらい】 単元での児童生徒の様子を踏まえて評価し、さらなる実態把握へとつなげる。</p> </div>	<p>「個別の指導計画シート」</p> <p>○個別の指導計画を作成して授業実践を行うことにより、生徒一人一人への評価が具体的にを行うことができたという発言があった。</p> <p>○個別の指導計画は、指導だけではなく評価に役立つという発言があった。</p> <p>○この個別の指導計画記録として残すことが、新たな生徒の学びの履歴と新たな実態把握につながるという意見があった。</p> <div data-bbox="555 1787 1417 1944" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【修正・改善の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の成果物の他に、感想なども参考に生徒の内面の成長もみえるようにする。 ・できたこと、できそうなことを記録することにより、次の単元につなげることができるようにする。 ・単元で身についた力が、生活のどの場面で生かされていくのかを明らかにする。 </div>

4 県内特別支援学級の現状を踏まえた「教育課程や領域・教科を合わせた指導」の指導実践の分析と考察

(1) 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の修正・改善

指導実践から得られたことを基に、以下のように資料の修正・改善を図った。

以下、【図24】にて資料の構成を示す。なお、下線部は、新たに付け加えたシートである。

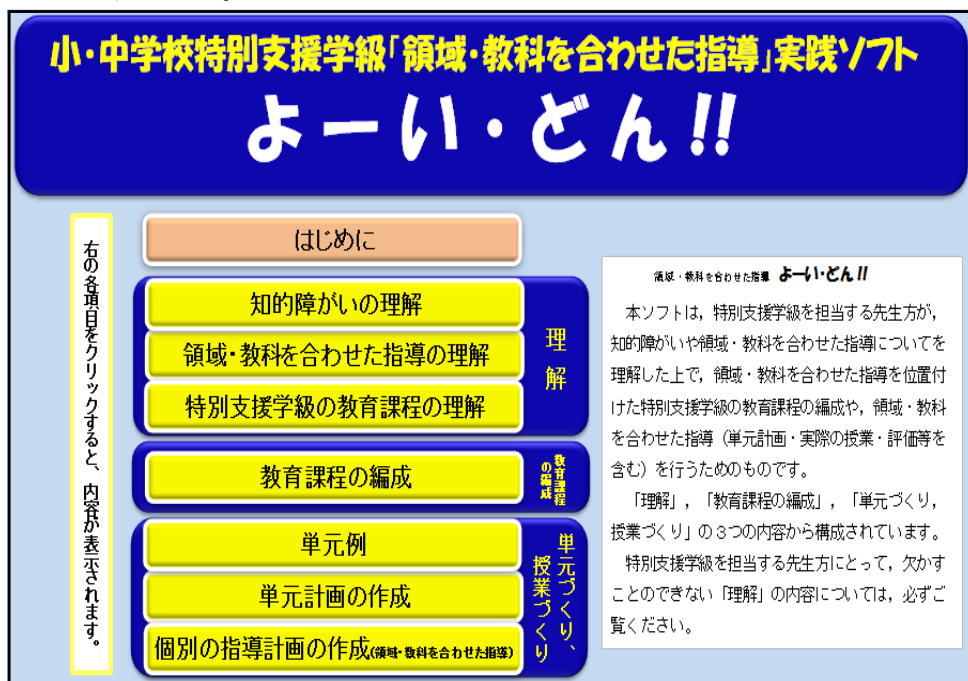


【図24】「教育課程や領域・教科を合わせた指導」に関する資料の構成

(2) 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の修正・改善後の使用の流れ

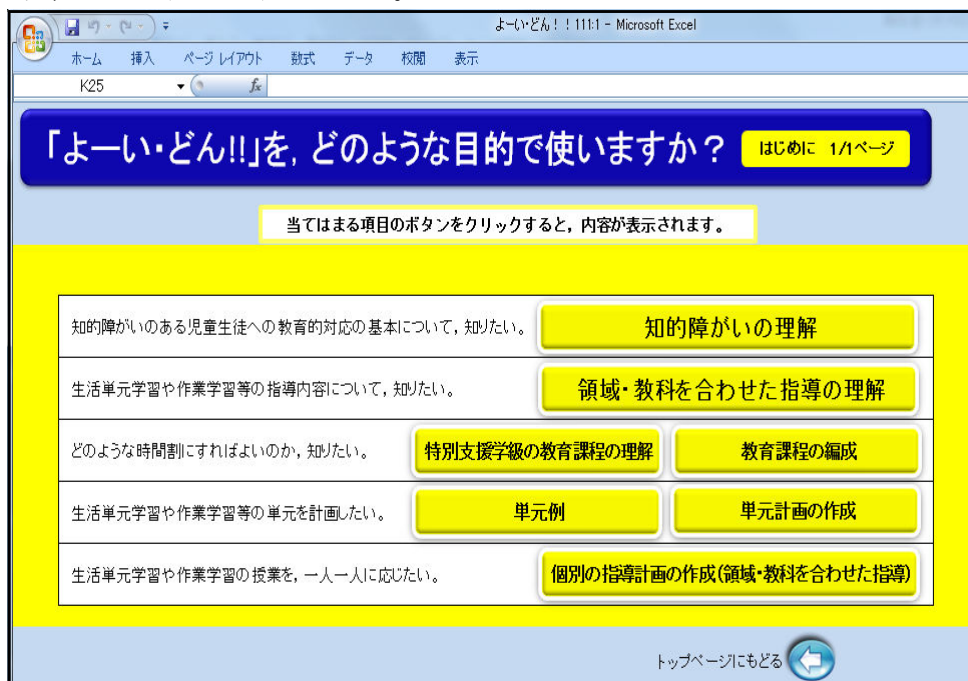
使用の流れについては11ページと同様ではあるが、シートの数を10枚増やした。以下、【図25】から【図46】にて、修正・改善した各シートを示す。

【図25】は、本資料のトップページである。名前を『小・中学校特別支援学級「領域・教科を合わせた指導」実践ソフト よーい・どん!!』とし、本資料を使用する対象と目的を明らかにした。また、本資料の作成の意図もトップページに記載した。それぞれの内容とボタンを「理解」、「教育課程の編成」、「単元づくり、授業づくり」のまとめりごとにした。このことにより、本資料の全体構成を把握することができるようにした。



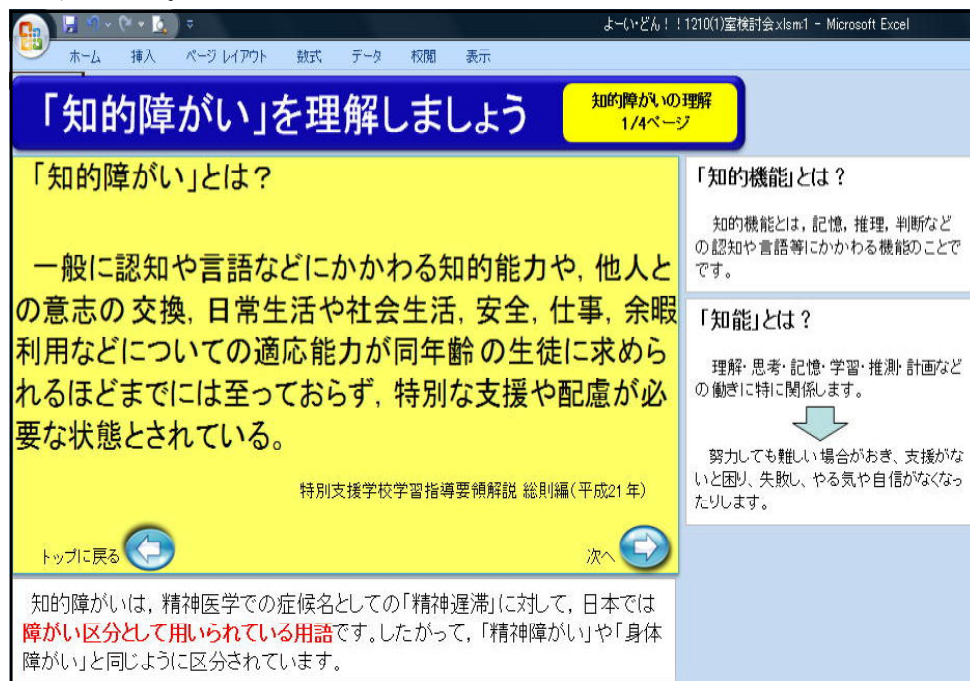
【図25】 トップページ

教師が本資料の使用目的を確認できるようにしたものが、【図26】の「はじめにシート」である。使用目的を明らかにした上で知りたい内容や活用したいシートを選択できるようにした。なお、シート右上には、トップページに表示されたボタンから何枚のシートが構成されて、そのうち何枚目のシートであるかを把握できる表示を取り入れた。



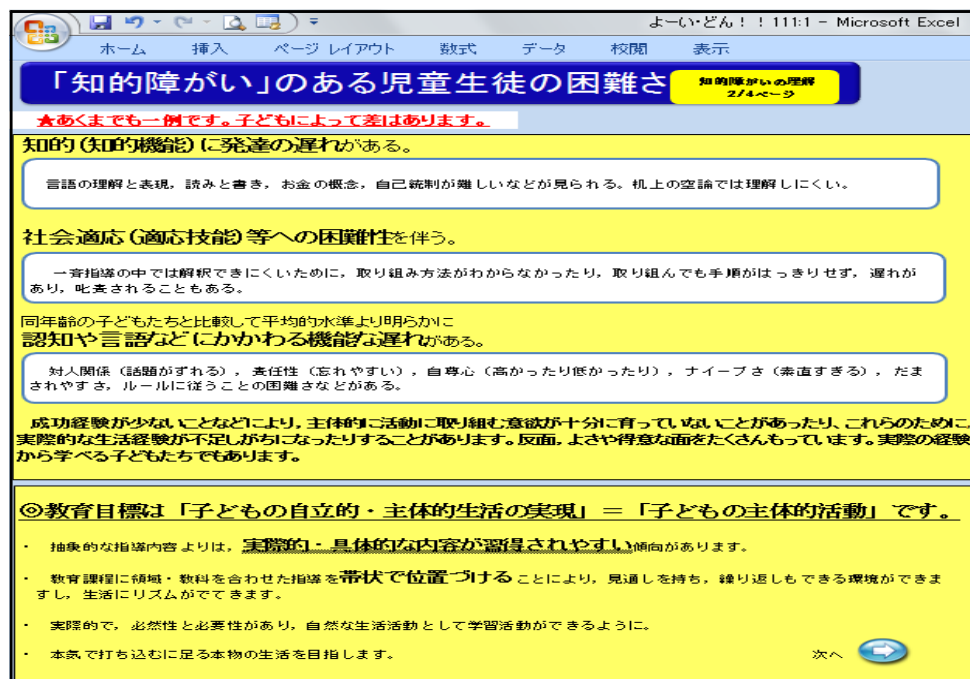
【図26】 はじめにシート

【図27】は、「知的障がいの定義シート」である。題名や背景、文字のポイント数等を統一することにより、読みやすくなるように修正・改善を図った。また文章の長さに配慮したり専門用語を極力使用しないようにしたりした。これらのことは、本資料を通して、修正・改善を図った。特別支援教育を担当する教師として必ず押さえておきたい用語については、背景色を変えた枠の中で説明し、併せて理解できるようにした。



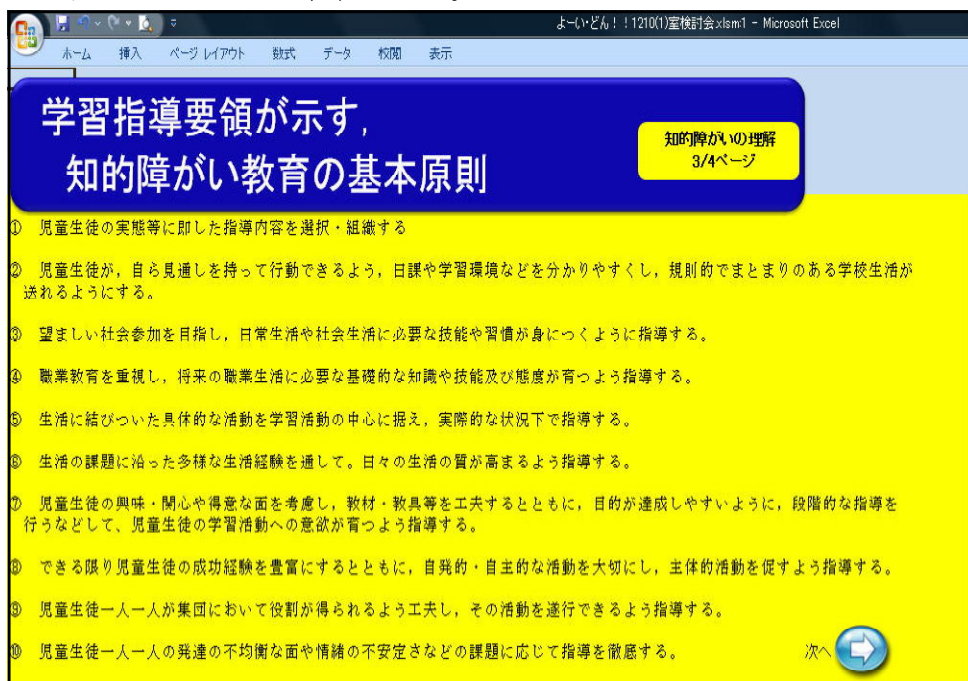
【図27】 知的障がいの定義シート

【図28】は、知的障がいのある児童生徒の主な困難さを記したシートである。ただし、すべての児童生徒に当てはまることではないことから、「あくまで一例です。子どもによって差はあります。」という注意事項を加えた。この児童生徒の困難さを踏まえた上で、次のシートに示す教育的対応の基本原則を理解することができるよう「次へ」ボタンを配置することにより、必ず次のシートへ進むことができるようにした。



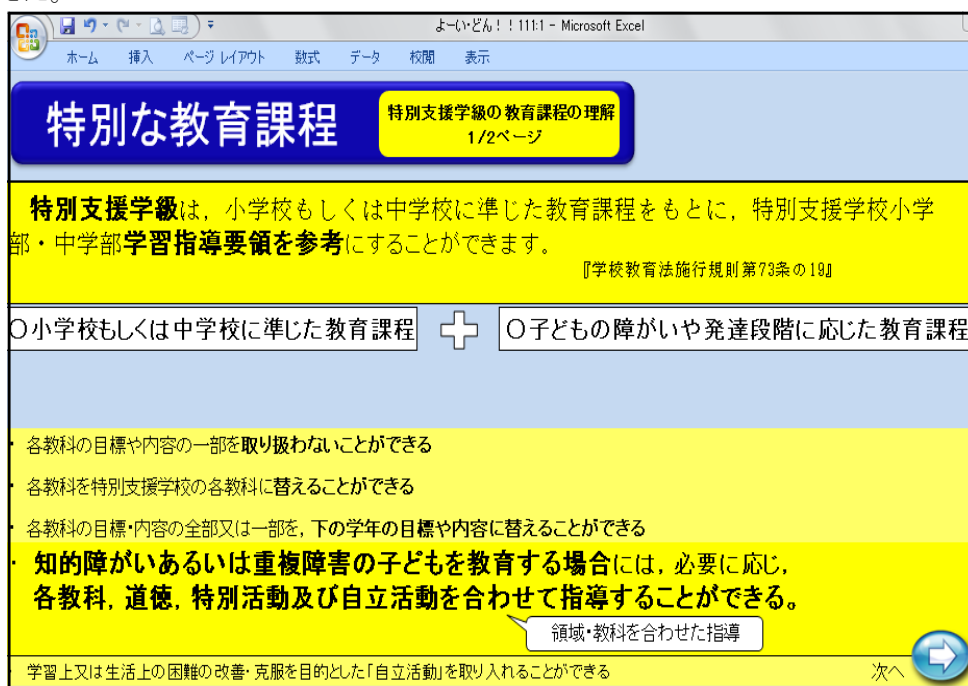
【図28】 児童生徒の困難さシート

【図29】の「教育的対応の基本シート」は、知的障がい教育の基本原則を示したものである。これらについては、特別支援学校学習指導要領解説に示されており、知的障がい特別支援学級担当者として必ず理解が必要であるものとして位置付けた。



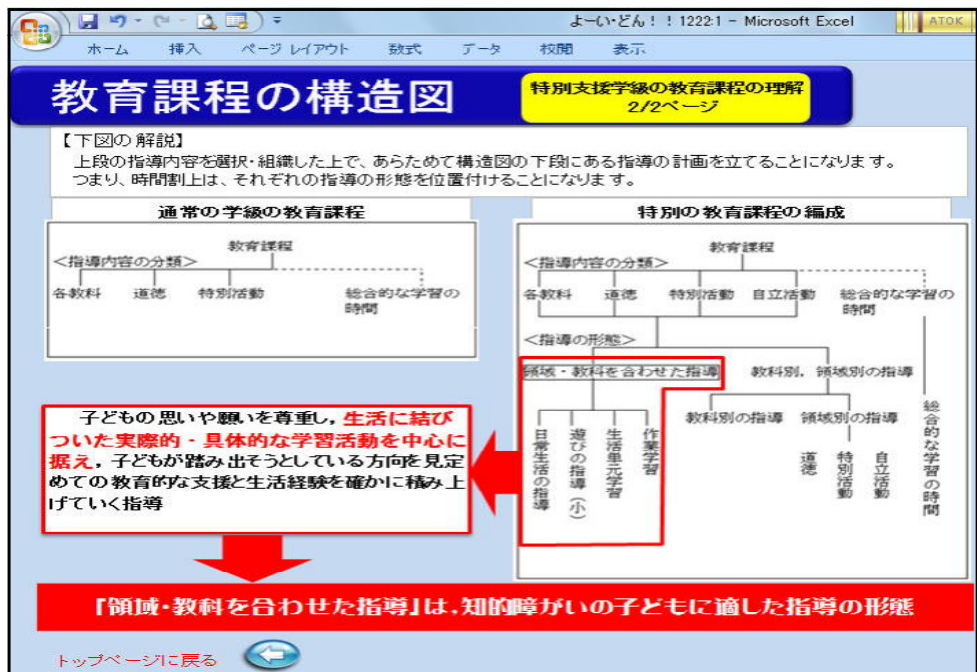
【図29】 教育的対応の基本シート

【図30】では、特別支援学級における特別な教育課程の編成について示した。内容が理解できるよう、大切な語句を太文字で表したり、文字の大きさを調整したりした。また、知的障がいあるいは重複障がいの子どもを教育する場合には、必要に応じ、各教科、道徳、特別活動及び自立活動を合わせて指導することができる領域・教科を合わせた指導の充実が必要であるということにつながるよう吹き出しを加えた。



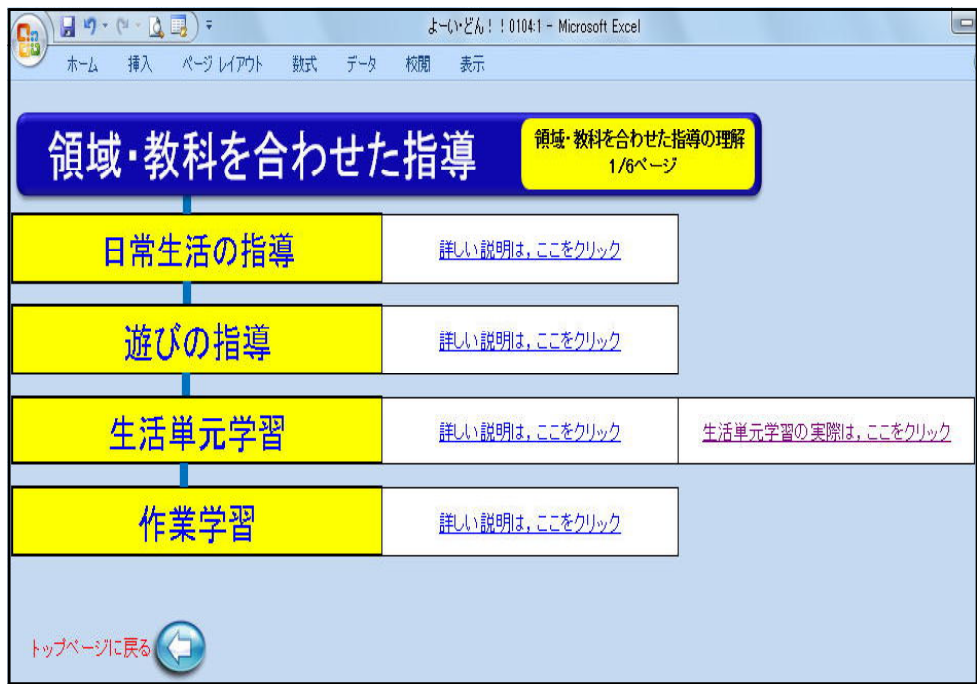
【図30】 特別な教育課程の編成シート

【図31】は、通常の学級の教育課程と「特別な教育課程の構造図シート」である。特別支援学級は、特に必要がある場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考に、子どもの障がいや発達段階に応じた特別な教育課程を編成することができること、そして、その教育課程の構造を通常の学級の教育課程と比較しながら、領域・教科を合わせた指導の意義の理解を促すことができるようにした。



【図31】 特別な教育課程の構造図

【図32】の「合わせた指導の概要シート」では、四つの指導形態を示すに止め、一枚のシートの情報量を抑えたり、一つのシートの内容の焦点化を図ったりして理解しやすいようにした。「詳しい説明は、ここをクリック」を押すことにより【図33】、【図34】、【図35】、【図36】のそれぞれの指導形態の説明へと移る。それぞれのシートでは、領域・教科を合わせた指導を指導形態ごとに1枚のシートにまとめ、具体的な指導内容、指導計画を作成するに当たって考慮する点などを示した。



【図32】 合わせた指導の概要シート

【図33】は、日常生活の指導における具体的な指導内容、指導計画を作成するに当たって考慮すべき点を示した。これらの内容は、特別支援学校学習指導要領解説に示されているものを要約した。

日常生活の指導 領域・教科を合わせた指導の理解 2/6ページ

「日常生活の指導」とは？
児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものである。

「日常生活の指導」では？
衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など基本的な生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ることなどの日常生活や社会生活において必要で基本的な内容を指導する。

「日常生活の指導」の指導計画を作成するに当たって考慮する点

- (ア) 日常生活の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で行うものであること。
- (イ) 毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図るものであり、繰り返しながら、発展的に取り組むようにすること。
- (ウ) できつつあることや意欲的な面を考慮し、適切な援助を行うとともに、目標を達成していくために、段階的な指導ができるものであること。
- (エ) 指導場面や集団の大きさなど、活動の特徴を踏まえ、個々の実態に即した効果的な指導ができるよう計画されていること。

← 領域・教科を合わせた指導に戻る

【図33】合わせた指導の説明シート（日常生活の指導）

【図34】は、遊びの指導における具体的な指導内容、指導計画を作成するに当たって考慮すべき点を示した。これらの内容は、特別支援学校学習指導要領解説に示されているものを要約した。

遊びの指導 領域・教科を合わせた指導の理解 3/6ページ

「遊びの指導」とは？
遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動をはげくみ、心身の発達を促していくものである。

「遊びの指導」では？
生活科の内容をはじめ、各教科に関わる広範囲の内容が扱われ、場や遊具等が限定されることなく、児童が比較的自由に取り組むものから、期間や時間設定、題材や集団構成などに一定に条件を設定し活動するといった比較的限制性が高い遊びまで連続的に設定される。また、遊びの指導の成果が各教科別の指導等につながることもある。

「遊びの指導」の指導計画を作成するに当たって考慮する点

- (ア) 児童が、積極的に遊ぼうとする環境を設定すること。
- (イ) 教師と児童、児童同士のかかわりを促すことができるよう、場の設定、教師の対応、遊具等を工夫すること。
- (ウ) 身体活動が活発に展開できる遊びを多く取り入れるようにすること。
- (エ) 遊びをできる限り制限することなく、児童の健康面や衛生面に配慮しつつ、安全に選べる場や遊具を設定すること。
- (オ) 自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びを促したり、遊びに誘ったりして、いろいろな遊びが経験できるよう配慮して、遊びの楽しさを味わえるようにしていくこと。

← 領域・教科を合わせた指導に戻る

【図34】合わせた指導の説明シート（遊びの指導）

【図35】は、生活単元学習の具体的な指導内容、指導計画を作成するに当たって考慮すべき点を示した。これらの内容は、特別支援学校学習指導要領解説に示されているものを要約した。

生活単元学習 領域・教科を合わせた指導の理解 4/6ページ

「生活単元学習」とは？
 児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際・総合的に学習するものである。

「生活単元学習」では？
 広範囲に各教科等の内容が扱われる。

「生活単元学習」の指導計画を作成するに当たって考慮する点

- (ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団に適合するものであること。
- (イ) 単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであること。
- (ウ) 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動をも含んだものであること。
- (エ) 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団生活で単元の活動に共同して取り組めるものであること。
- (オ) 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
- (カ) 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるよう計画されていること。

← 領域・教科を合わせた指導に戻る

【図35】合わせた指導の説明シート（生活単元学習）

【図36】は、作業学習の具体的な指導内容、指導計画を作成するに当たって考慮すべき点を示した。これらの内容は、特別支援学校学習指導要領解説に示されているものを要約した。

作業学習 領域・教科を合わせた指導の理解 5/6ページ

「作業学習」とは？
 作業活動を学習活動の中心にしなから、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。

「作業学習」では？
 農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニングなどのほか、販売、清掃、接客なども含み多種多様である。

「作業学習」の指導計画を作成するに当たって考慮する点

- (ア) 生徒にとって教育的価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む喜びや完成の達成感が味わえること。
- (イ) 地域性に立脚した特色を持つとともに、原料・材料が入手しやすく、持続性のある作業種を選定すること。
- (ウ) 生徒の実態に応じた段階的な指導ができるものであること。
- (エ) 知的障害の状態等が多様な生徒が、共同で取り組める作業活動を含んでいること。
- (オ) 作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的であり、作業量や作業の形態、実習期間などに適切な配慮がなされていること。
- (カ) 作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への流れが理解されやすいものであること。

← 領域・教科を合わせた指導に戻る

【図36】合わせた指導の説明シート（作業学習）

【図37】の「合わせた指導の説明シート」は、領域・教科を合わせた指導の実際を示したものである。領域・教科を合わせた指導における実際の授業を通して、より具体的に理解することができるようにした。なお、ここで示した実際の授業は、指導実践を基にした。

【図37】合わせた指導の説明シート（生活単元学習の実際）

【図38】の「教育課程の編成手順シート」は、各校において、通常の学級と特別支援学級の教育課程のかかわりを踏まえながら編成することができるように手順を示したものである。特別支援学級も一つの学級集団であり、同一時間に取り組むことの意義や、その時間の設定についての大切さを箱囲みで示した。

【図38】教育課程の編成手順シート

【図39】の「時間割例シート」では、特別支援学級の時間割例を3例示した。例1の带状とした時間割が、特別支援学級に在籍する児童生徒にとって、分かりやすい日課となっていることから、望ましい時間割とした。領域・教科を合わせた指導の時間を、さらに増やすことも考えられるが、本年度の岩手県内の特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の時間が4時間程度であることから、設定可能な範囲内の時数をもって例として示した。なお、例2の時間割の例は、モザイク型と呼ばれ、見通しをもちにくい時間割の例であり、例3は、知的障がいのある児童生徒にとっての教育的対応の基本を踏まえたものとは言い難い時間割の例とした。

よーいどん!! 1227:1 - Microsoft Excel

ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示

A1

特別支援学級の時間割例

教育課程の編成
2/5ページ

例1(带状) 望ましい時間割の例

	月	火	水	木	金
1校時	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
2校時					
3校時	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	作業学習
4校時					作業学習
5校時					
6校時					

例2(モザイク型) 改善を要する時間割の例

	月	火	水	木	金
1校時	日常生活の指導		日常生活の指導		
2校時		日常生活の指導			
3校時			生活単元学習	日常生活の指導	
4校時	生活単元学習				
5校時	生活単元学習			作業学習	
6校時		作業学習	生活単元学習		日常生活の指導

例3(穴埋め型) 改善を要する時間割の例

	月	火	水	木	金
1校時					
2校時				作業学習	
3校時					
4校時					
5校時		生活単元学習			
6校時					

左の表では、1時間目に日常生活の指導を設定しています。毎日繰り返し日常生活に必要な活動を行ったり、その日の活動の確認をしたりできます。3時間目には、生活単元学習や作業学習を帯状でとっていることから、**規則性があり、子どもにとってわかりやすい日課になっています。**

小学校特別支援教育(知的障がい)教育課程作成へ

中学校特別支援教育(知的障がい)教育課程作成へ

領域・教科を合わせた指導の時数は、例1と同様です。しかし、毎日の日課が異なっているために、**見通しをもちにくい日課となっています。**知的障がいや自閉症の児童生徒の場合、このような時間割は見通しをもちにくく、学校生活自体への困難さを感じる事が多いです。

領域・教科を合わせた指導の時間を設定していますが、**知的障がいのある児童生徒にとっての教育的対応の基本を踏まえたものとは言い難い**のではないのでしょうか。系統的な教科学習に取り組むことが、その児童生徒にとって適切な指導内容であれば適切な時間割となる場合もありますが、知的障がいのある児童生徒が在籍している場合は、将来的な社会参加や自立を目指す指導が可能な時間割にすることが望ましいでしょう。

【図39】時間割例シート

【図40】の「時間割・授業時数シート」は、時間割とそれぞれの教科等の週あたり・年間時数を関連付けながら考えることができるように示した。時間割に各教科や領域・教科を合わせた指導を選択して入力すると、週あたりの時数と年間時数の枠に数字が自動的に入力されるようにした。

よーいどん!! 1227:1 - Microsoft Excel

ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示

A1

時間割と授業時数の作成

教育課程の編成
3/5ページ

領域・教科を合わせた指導のよさを生かした時間割の例

	月	火	水	木	金
1校時	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
2校時					
3校時	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	作業学習
4校時					作業学習
5校時					
6校時					

()学級時間割

	月	火	水	木	金
1校時					
2校時					
3校時					
4校時					
5校時					
6校時					

週あたりの時数

	週あたりの時数	1年生	2～6年生	年間標準授業時数							
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生				
領域	日常生活の指導	0	0	0							
	遊びの指導	0	0	0							
	生活単元学習	0	0	0							
	作業学習	0	0	0							
教科	国語	0	0	0	272	280	235	235	180	180	
	社会	0	0	0			70	85	90	90	
	算数	0	0	0	114	155	150	150	150	150	
	理科	0	0	0			70	90	95	95	
	生活	0	0	0	100	105					
	音楽	0	0	0	68	70	60	60	50	50	
	図画工作	0	0	0	68	70	60	60	50	50	
	家庭	0	0	0					60	60	
	体育	0	0	0	90	90	90	90	90	90	
	道徳	0	0	0	34	35	35	35	35	35	
領域	特別活動	0	0	0	34	35	35	35	35	35	
	自立活動	0	0	0							
その他	総合的な学習の時間	0	0	0			105	105	75~110	75~110	
	外国語活動	0	0	0					0~35	0~35	
合計	0	0	0	782	840	910	945	945	945		

トップページに戻る

【図40】時間割・授業時数シート(小学校用)

【図41】の「単元例シート」では、参考となる単元の指導形態、単元名、概要、学習活動、留意事項を示した。大切なところを特別支援学級担当者が理解しやすいように箇条書きで示した。また、追記可能になっているので、各学校において、新たに実践した単元をこのシートに入力することにより、データベースとしての充実につながるよう、空欄の枠を設けた。

目次	指導形態	単元	概要	学習活動	留意事項
1	生活単元学習	キャンプを作ってキャンプしよう	<ul style="list-style-type: none"> キャンプ、コテージ作成、日記を書く(管理し、ジヤガイも、トマ、ニンジン、タマネギなどを栽培、収穫をする(児童生徒の希望を十分取り入れる) 	<ul style="list-style-type: none"> 土づくり(耕す、石灰を撒き、中耕させる) 畝をつくる(野菜の畝(種から・苗から) 野菜の水やりや肥料、害虫対策 買い物 調理 レシピ作り、メニュー作り(タイムスケジュール作り) 行き方調べ・公共交通機関の利用 お金の管理(字室内で買い物)(出納帳づくり) キャンプ場でキャンプ(コテージ作り) 寝る前、ユニークを作る(取組みやすいよう、45秒) テントのユニークをたくさん作る。また、ワンポイントオーヤベニヤの切断、組み立てを分担して取り組む テーブル、椅子を作る キャンプをする(買い物、パークビュー、餅食づくり、後片付け) 	<ul style="list-style-type: none"> 種の上や場所の確保をする(石灰等は飛散させないように注意する) 適切な水やりや水やりの頻度を事前に知っておく 必要な肥料や害虫の対策準備(化学肥料を使わない自然農法、有機肥料) 種の場合は育苗箱を準備する 長靴の準備や軍手の準備をさせる(場合によっては帽子も) すべての活動を役割分担し、記録しておく 子ども一人ひとりに併せて作業台の高さを工夫 組み立てでは、バリス等を利用して材料を固定し、木ねじが打ち込みやすい特を用意する 分担は、やりたいこと、得意なこと、できること、できそうなことを考慮して決める。 途中、作業分担の変更も可能になるよう、事前に約束事を決めておく 毎日繰り返す※数時はできる状況づくりの徹底に努める
2	生活単元学習	七夕をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 短冊をつくり、織姫と彦星の七夕の話を、パネルシアターにて上演 	<ul style="list-style-type: none"> 七夕の会のスケジュール作り(取組み日程、当日の日程等) 安全な運動・短冊作成・交流(学級生徒も短冊づくりに参加依頼) 保護者の書いた短冊(保護者の希望や期待)依頼 星の放送やポスター作り 招待状づくり 隣の会等での紹介 団体の時間学習した織姫と彦星の話をパネルシアターにて上演 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの道具の使用方法を正しく指導する 竹の固定がうまくできるような力の準備をする 教室内や廊下に貼り付けることができる長さに調節する 色紙を進進し、穴が一定の場所に開くようにする 集音目標を決め、達成させるために配布するちらし等の必要も考えさせる 可能であれば、上演に参観者を募る
3	生活単元学習	作って食べようお菓子づくり	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と一緒に簡単なお菓子を作り、会合をする 	<ul style="list-style-type: none"> メニュー作り レシピ作り 買い物 調理 会合会のスケジュール作り(会の進行も含む) 招待状づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への協力依頼(目的、目標を伝える) 家庭でのお手伝いの様子を事前に調査しておく できるだけ家で使っている道具を持ってきてもらい調理する 失敗が少なくなるよう作成するお菓子の分量を事前に決めておく この活動から、家庭でも一緒にお手伝いをしたりすることができるようになるよう支援の手立てを工夫する(やってみせ、やらせてみせ) できるだけ一人で安全にお菓子づくりができるようになるための支援の手立てを考案する

【図41】 単元例シート

【図42】は、見通しをもって教師も児童生徒も取り組むために、1ヶ月前迄には題材や活動を決めることが大切であることなどの、単元づくり、授業づくりの手順を示したものである。さらに、単元・授業の成功の秘訣として、段取りと共通理解について、箱囲みで示した。

領域・教科を合わせた指導における
単元づくり、授業づくりの手順

単元計画の作成
1/3ページ

- 学級や児童生徒の実態等から、単元のテーマや中心となる題材・活動を定める。
※ 1ヶ月前迄には、決定していると、活動するに当たっての必要なものの準備や連絡調整等の時間をとることができる。
- 「単元計画」を作成し、教師間での打合せを行う。
※ 活動計画、環境設定、必要なもの等、活動するに当たっての詳細について検討することが必要です。
- 単元内の題材から、具体的な学習活動を想定し、一人一人の「個別の指導計画(領域・教科を合わせた指導)」を作成する。
※ 学期等の比較的長い期間において、いくつかの単元をまとめて計画することにより、「個別の指導計画(領域・教科を合わせた指導)」を何度も作り直すことが減ります。
- 「単元計画」や「個別の指導計画(領域・教科を合わせた指導)」を使用している授業と評価を行う。

次へ

単元・授業の成功の秘訣は、**段取りと共通理解**です。
領域・教科を合わせた指導のよさとして、学級の子どもたちが、ある一つのテーマや目的に向かって、友達とかかわりあひながら、活動することがあげられます。

児童生徒が見通しをもつことの大切さと同様に、指導する教師も見通しをもって準備・指導に当たることが大切です。

【図42】 単元・授業づくりの手順シート

【図43】では、これまで知的障がい教育において積み重ねられてきた実践や教育論を基に、単元づくり、授業づくりで大切なこととして示した。また、特別支援教育に関する経験年数の少ない教職員が多い本県の実情に合わせて、領域・教科を合わせた指導を行うに当たって、勇気付ける言葉も盛り込んだ。

よーいどん!! 119:1 - Microsoft Excel

ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示

単元づくり, 授業づくりで大切なこと 単元計画の作成
2/3ページ

- ◎ 事前の準備や授業当日に、教師が児童生徒と共に取り組むことで、具体的な指導が見えてくる。
- ◎ 生活をしたことがないという教師はいない=生活単元学習をしたことがないという教師はいない。
- ◎ 単元期間は数週間から1ヶ月程度→テーマに見直しを持って。
- ◎ 最も中心的な活動を絞り込み、大きく位置づけ、一人一人に活動を分担。そして、積み重ねる。
- ◎ どこまでも主体は子ども。
- ◎ できる手立てを考える。
- ◎ 生活力をつけることが中心となる。

次へ

【図43】単元・授業づくりで大切なことシート

【図44】は、「単元を計画するためのシート」とした。特別支援学級担当者が単元を計画する際の作業量が多くなならないよう、必要最小限の項目のみの枠とした。また、一つ一つの活動内容に必要な教材教具等を記録して、実際の授業の準備に役立てることができるよう新たに枠を設けた。シート右側の参考単元は、「単元例シート」（【図41】）とリンクしており、参考単元名の枠をクリックすると、単元例の中から、参考となる単元の活動内容や留意事項等が表示されるようにした。

よーいどん!! 119:1 - Microsoft Excel

ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示

単元名	クリスマス会(日頃お世話になっている方々のクリスマス会)	参考単元名	クリスマス会(日頃お世話になっている方々のクリスマス会)
概要	保護者や先生を招いたクリスマス会を実施	概要	保護者や先生を招いたクリスマス会を実施
日	12月3日(金)	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・会の内容をみんなで決定(司会進行も生徒)(子どもが難しければ謝のプレゼントをする)(クリスマス絵読み会の内容の検討) ・音楽(グラスハープやハンドベル等の使用) ・役割分担 ・日程計画 ・招待状の作成 ・配布用のプログラム(タイムスケジュール)作成 ・壁面の飾り付けの設定 ・カード作成 ・プレゼント交換会の実施 ・ケーキ作り
時刻		留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ◎季節の雰囲気を楽しみながら、自分たちの手で会を作り上げようとする姿を願って・・・プレゼントの中心は、日頃のお世話に対する感謝の気持ちをクリスマスというイベントを利用して行いたいとする ・ミニ学習成果発表会にもなるが、保護者が演を流すような演奏曲や一生懸命さを見せることが重要である(グラスハープ等の楽器) ・平日開催が難しい場合、土日に開催し、できるだけ保護者が参加できるようにする。また、保護者が参加できない場合は、先生が保護者にかかわることとする(事前)に知らせ、その保護者には、手紙を書いてもらう ・魚ひ出しカードや和紙カードを要求する場合は想定してあげ、できるだけ準備づきせさせる。(お金では買えない物) ・どの保護者、参加できる先生方(と事前)に、プレゼントへのお返し(言葉)を準備してもらおう(教師からの感謝・御礼を出すために、クリスマスに関するBGMを流す等、場の設定も考えさせる) ・ケーキ作成の場合は、買い物も学習活動に入れて計画
教材教具	連絡先、経費等の活動に必要な準備しておくこと		

右側に参考単元があります。
一番上の単元例を選択すると、単元の概要や活動内容、留意事項が表示されます。

トップページに戻る

カード

印刷

【図44】単元を計画するためのシート

【図45】の「個別の指導計画シート」は、単元内の学習活動から、児童生徒の具体的な活動を想定し、目指す姿や具体的な手立て、そして単元後の姿を入力するものを示した。それぞれの枠をクリックすると「社会生活構成要素シート」（【図46】）の情報が呼び込まれ、自動入力できるようにした。また、自動入力だけではなく、特別支援学級担当者が自分で入力することができるようにもしており、単元を終えた後は、児童生徒の姿を入力することにより、それが次の単元における実態把握にもつながるようにした。

活動内容	要素	実態	目指す姿	具体的な手立て

【図45】個別の指導計画シート

【図46】の「社会生活構成要素シート」は、盛岡市立仁王小学校の研究による『社会生活構成要素』のPDFファイルへリンクすることができるようにした。

【図46】社会生活構成要素シート

5 小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関するまとめ

「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を作成し、それに基づいた実践結果を踏まえた上で、成果と課題は、以下の通りである。

(1) 成果

ア 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」は、特別支援学級の教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する基礎的内容の理解が図られる。

イ 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」は、具体的な事例を示していることにより、特別支援教育の視点による実践への見通しをもつことにつながる。

ウ 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を使用した実践により、生徒一人一人が自立に向け、主体的に存分に活動することにつながる。

(2) 課題

「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を修正・改善した『小・中学校特別支援学級「領域・教科を合わせた指導」実践ソフト よーい・どん!!』について、単元例を増やしたり、シートへの入力をしやすくして、さらに改善を図る必要がある。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究は、県内小・中学校特別支援学級の現状を踏まえた「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を作成し、小・中学校における知的障がいのある児童生徒への適切な指導及び支援の充実に役立てようとするものであった。

そのために、小・中学校特別支援学級における児童生徒への適切な指導と必要な支援についての基本構想をまとめた。そして、県内小・中学校特別支援学級教育課程届を基に、現状を把握し、「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を作成し、作成に係わる実践を通して修正・改善を図り、『小・中学校特別支援学級「領域・教科を合わせた指導」実践ソフトよーい・どん!!』を作成した。

(1) 小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関する基本構想

先行研究や文献等を参考に、県内の小・中学校を踏まえた資料の意義や方向性などの、基本構想をまとめることができた。

(2) 平成22年度特別支援学級教育課程届の分析と考察

岩手県内小・中学校の特別支援学級における現状や課題を明らかにすることができた。

(3) 県内特別支援教育の現状を踏まえた「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の作成と指導実践

岩手県内小・中学校の特別支援教育における現状や課題から明らかになったことを基に、領域・教科を合わせた指導の充実のための改善の視点を持ち、「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を作成することができた。また、この資料を使用した指導実践を行うことができた。

(4) 県内特別支援学級の現状を踏まえた教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する指導実践の分析と考察

指導実践から得られた「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の修正・改善の視点を基に『小・中学校特別支援学級「領域・教科を合わせた指導」実践ソフトよーい・どん!!』を作成することができた。

(5) 小・中学校特別支援学級における領域・教科を合わせた指導の充実に関するまとめ

小・中学校特別支援学級において、「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を使用することにより、領域・教科を合わせた指導の充実や児童生徒の自立に向け、主体的に存分に活動することにつながるであろうという見通しをもつことができた。

2 今後の課題

小・中学校特別支援学級の教育課程の編成や単元・授業づくりの充実をさらに図るためには、校内教職員が、特別支援学級や知的障がいのある児童生徒についての理解をもち、協力していくことも必要であることから、校内教職員への研修を含めた学校組織マネジメントの視点から研究を進めていかなければならない。

<おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と生徒のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

【引用文献】

- 三木安正(1951),『精神遅滞児の生活教育』,牧書店 p. 248
文部科学省(2009),『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領』,海文堂 p. 35, p. 44, p. 46, p. 106, p. 108
文部科学省(2009),『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』,教育出版 pp. 166-167, p182, pp. 244-248

【参考文献】

- 阿部芳久(2006),『知的障害児の特別支援教育入門 授業とその展開』,株式会社日本文化科学社
岩手県特別支援教育研究会(2010),『岩手県特別支援学級等設置学校長特別支援学校長及び担任者簿』
岩手県立総合教育センター(2009),『特別支援学級経営の手引』
太田正巳(2002),『障害児教育&遊びシリーズ5 障害児のための授業づくりの技法 個別の指導計画から授業研究まで』,黎明書房
太田正巳(2009),『特別支援教育の教師のための授業づくり 5つの具体性原則を学ぶ』,明治図書
小出進監修 名古屋恒彦著(1996),『知的障害教育方法史 生活中心教育・戦後50年』,大揚社
国立特別支援教育総合研究所(2006),『生活単元学習を実践するためのガイドブック ～「これまで」,そして「これから」～』
全日本特別支援教育研究連盟(2007～2010),『特別支援教育研究No. 584～No. 628』,日本文化科学社
全日本特別支援教育研究連盟編 名古屋恒彦責任編集(2010),『基礎から学ぶ知的障害教育』,日本文化科学社
千葉大学教育学部附属特別支援学校(2009),『領域・教科を合わせた指導ガイドブック 生活単元学習・作業学習の進め方Q&A』,ケー アンド エイチ
千葉大学教育学部附属特別支援学校(2007),『こども主体・生活中心の教育シリーズ 特別支援教育のための知的障害教育・基礎知識Q&A』,ケー アンド エイチ
辻 誠一(2003),『できる・わかる・楽しい授業 特別支援教育のコツと技』,日本文化科学社

名古屋恒彦(2004),『こども主体の特別支援教育をつくる生活中心教育入門』,大揚社
名古屋恒彦(2010),『特別支援教育領域・教科を合わせた指導のABC』,東洋館出版社
盛岡市立仁王小学校(2009),『新しい教育課程の構想と授業の改善』
盛岡市立仁王小学校(2009),『社会生活構成要素』
文部省(1993),『遊びの指導の手引』,慶應通信株式会社
文部省(1995),『作業学習の手引』,東洋館出版社
文部省(1986),『生活単元学習指導の手引』,慶應通信株式会社
文部省(1994),『日常生活の指導の手引(改訂版)』,慶應通信株式会社